

三十五年  
二月省令  
第五號參  
看

●陸軍省令第一號 (明治三十三年一月廿三日)

陸軍召集諸費支出規程

第一條 充員召集補充召集ニ係ル諸費ハ臨時費ニ屬シ定期演習召集教育召集及補缺召集ニ係ル諸費ハ經常費ニ屬ス

臨時演習召集ニ係ル諸費ノ所屬ハ臨時之ヲ定ム

第二條 召集諸費ヲ分テ召集旅費歸郷旅費召集雜費トス召集旅費ハ應召員ノ旅費、歸郷旅費ハ應召員中事故ニ因リ歸郷ヲ命セラレタル者ノ旅費、召集雜費ハ召集事務所ノ諸費應召員ノ引率諸費召集ニ關係アル官吏公吏ノ出張旅費、諸部團隊官衙公署ニ要スル郵便電信料使丁賃金等トス

第三條 召集諸費ノ仕拂命令官ハ師團經理部長トス

第四條 召集諸費ノ出納官吏 現金前渡ヲ受クル者ハ諸部團隊、道廳警視廳、府縣廳ノ官吏及郡市長 東京市京都市大阪市及北海道沖繩縣ノ區ニ在テハ區長、北海道ノ區制ヲ施行セサル地方ニ在テハ支廳長、島司ヲ置キタル島嶼ニ在テハ島司、島司又ハ郡長ヲ置カサル島嶼ニ在テハ島司又ハ郡長ニ準スヘキ者、以下同シトス但シ必要ニ應シ郡書記 北海道沖繩縣ノ區書記、

北海道廳支廳附ノ屬ニ分任出納官吏ノ職務ヲ執ラシメ若ハ警察官吏町村長ニ準ス  
島廳書記ヲ包含ス  
ヘキ者ヲ包含ス  
ニ出納官吏又ハ分任出納官吏ノ職務ヲ執ラシムルコトヲ得  
ス、以下同シ

第五條 師團長ハ召集旅費支給ノ地方區域及其ノ區域ニ於ケル出納官吏又ハ分任出納官吏ノ官(職)名ヲ定メ一月三十一日迄ニ聯隊區司令官、警備隊司令官、警備隊區司令官ヲ包含ス、以下同シ  
ニ達シ警視總監、地方長官ニ通知スヘシ但シ應召員ノ到著地ニ到著シタル後ニ於テ旅費ヲ支給セシムヘキモノアルトキハ之ヲ其ノ出納官吏又ハ分任出納官吏所屬ノ諸部團隊長ニモ達スヘシ

召集旅費支給ノ區域ハ數郡市島嶼ヲ併セ一區ト爲シ若ハ郡ノ一部ヲ他ノ郡市ニ分屬シテ一區ト爲シ或ハ一郡ヲ二區以上ニ分ツコトヲ得

第六條 召集諸費ノ出納官吏分任出納官吏ノ任命ハ郡市長ヲ除クノ外ハ諸部團隊長、警視總監又ハ地方長官ニ於テスヘシ

第七條 諸部團隊長、警視總監、地方長官ハ召集諸費前渡ヲ受クヘキ官吏及公吏ノ官(職)氏名ヲ師團長ニ通知スヘシ師團長ハ之ヲ當該仕佛命令官及聯隊區司令官ニ通

達シ大藏省ニ報告スヘシ爾後異動アルトキ亦同シ

第八條 陸軍部外ノ出納官吏分任出納官吏ニシテ事故ニ因リ代理ヲ要スルトキ其ノ代理者ノ命免、會計規則第九十一條第九十二條及第百條ニ依リ要スル検査員立會員若ハ計算書ヲ調製セシムヘキモノノ任命ハ警視總監、地方長官ニ於テスヘシ  
會計規則第九十三條ノ檢定書ハ師團長ニ提出スヘシ

第九條 諸部團隊長、警視總監及地方長官ハ第五條第一項ノ通達ヲ受ケタルトキハ之ヲ所轄出納官吏又ハ分任出納官吏ニ達スヘシ

第十條 郡市長ハ充員召集補充召集實施ニ方リ郡市役所東京市京都市大阪市及北海道、北海廳、島司又ハ郡長ヲ置カサル島嶼ニ在テハ支廳、島司ヲ置キタル島嶼ニ在テハ區役所、町村役場ニ準スヘキモノニ要スル召集諸費概算表第一ヲ作り二月十五日迄ニ聯隊區司令官ニ送付スヘシ

第十一條 聯隊區司令官ハ充員召集名簿待命員名簿ニ依リ召集旅費及充員召集補充召集實施ニ方リ聯隊區司令部、警備隊司令部、警備隊區司令部ヲ包含ス、以下同シ  
ニ要スル召集雜費ヲ計算

シ且前條ノ概算表ヲ調査シ之ト共ニ一表ニ取纏メ召集諸費概算表第二ヲ作り二月二十八日迄ニ師團長ニ差出スヘシ

他ノ聯隊區ノ郡市町村長又ハ其ノ分任出納官吏ヨリ召集旅費ノ支給ヲ受クヘキ應召員アルトキハ其ノ概算表ハ別ニ之ヲ作りテ二月二十日迄ニ當該聯隊區司令官ニ送付シ該聯隊區司令官ハ前項ノ概算表ニ合記スヘシ

第十二條 削除

第十三條 憲兵隊長ハ充員召集補充召集實施ニ方リ憲兵隊本部、憲兵分隊本部、憲兵屯所及憲兵分屯所ニ要スヘキ召集雜費ヲ計算シ召集諸費概算表ヲ作り第二様式ニ月二十八日迄ニ師團長ニ差出スヘシ

第十四條 警視總監、地方長官ハ充員召集補充召集實施ニ方リ道廳、警視廳、府縣廳、警察署、警察分署、巡查駐在所、巡查派出所及集合場ニ於ケル召集事務所ノ設置ニ要スヘキ雜費ヲ計算シ召集諸費概算表ヲ作り第二様式ニ二月二十八日迄ニ師團長ニ送付スヘシ

第十五條 師團長ハ充員召集ニ應スヘキ將官同相當官ノ旅費召集ニ關シ各隊ヨリ集合場其ノ他ニ派遣スヘキ者ノ旅費召集事務所集合場ニ於ケルモノハ設置後ノ雜費應召員中事故ニ因リ歸郷セシムヘキ者ノ旅費應召員ノ引率諸費及其ノ他ノ雜費ヲ計算シ第十一條乃至第十四條ノ概算表ヲ調査シ之ト共ニ一表ニ取纏メ召集諸費概算表四通第二様式ニ通第三様式ニ通第四様式ヲ作り三月十日迄ニ陸軍大臣ニ差出スヘシ

第十六條 聯隊區司令官ハ十二月一日ニ於ケル充員召集名簿待命員名簿ノ現在員ヲ豫定シ更ニ第十一條ノ召集諸費概算表ヲ作り十月三十一日迄ニ師團長ニ差出スヘシ  
他ノ聯隊區ノ郡市町村長又ハ其ノ分任出納官吏ヨリ召集旅費ノ支給ヲ受クヘキ應召員アルトキハ其ノ概算表ハ別ニ之ヲ作り十月二十日迄ニ當該聯隊區司令官ニ送付シ該聯隊區司令官ハ前項ノ概算表ニ合記スヘシ  
第十七條 師團長ハ前條ノ概算表ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ更ニ第十五條ノ召集諸費概算表四通ヲ作り十一月十日迄ニ陸軍大臣ニ差出スヘシ

第十八條 陸軍大臣ハ第十五條又ハ第十七條ノ概算表ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シテ大藏大臣ニ送付シ當該仕拂命令官ニ下付ス同時ニ其ノ概算表ノ有効期限ヲ定メ大藏大臣ニ通知シ當該師團長及仕拂命令官ニ令達ス但シ有効終期迄ニ次期概算表師團長及仕拂命令官ニ令達セス且金庫ニ到達セサルトキハ前期概算表ヲ有効トス

第十九條 師團長ハ其ノ計算シタル召集諸費中諸部團隊ノ出納官吏ニ前渡ヲ受ケシムヘキ金額ノ費目ヲ區分シ其ノ金額ヲ當該諸部團隊長ニ達シ諸部團隊長ハ之ヲ出納官吏ニ達スヘシ

第二十條 聯隊區司令官ハ其ノ計算シタル召集旅費中各出納官吏金庫ヨリ現金直送ノ分任出納官吏ヲ包含ニ前渡ヲ受ケシムヘキ金額ヲ該出納官吏ニ通知スヘシ但シ諸部團隊附ノ者在テハ其ノ諸部團隊長ニ通知シ諸部團隊長ハ之ヲ出納官吏ニ達スヘシ

第二十一條 聯隊區司令官ハ郡市長中其ノ所管外ノ地ニ本籍ノ在ル應召員ニ旅費ヲ支給スヘキ者アルトキ及町村長ニシテ召集旅費ヲ支給スヘキ者アルトキハ其ノ應召員ノ官等級氏名居住地、到着地、召集部隊、到着地迄ノ里數及旅費額ヲ毎年二回

該郡市長及町村長ニ通知スヘシ其ノ第一回ハ三月二十日第二回ハ十一月二十日迄トス但シ他ノ聯隊區ニ係ルモノハ第一回ハ三月十日第二回ハ十一月十日迄ニ該司令官ニ通知シ該聯隊區司令官ハ本文ニ依リ取扱フモノトス

諸部團隊ノ出納官吏中召集旅費ヲ支給スヘキ者アルトキハ前項ニ準シ諸部團隊長ニ通知シ諸部團隊長之ヲ當該出納官吏ニ達スヘシ

前二項ノ通知後ニ於テ異動アレハ其ノ都度通知スルモノトス

第二十二條 召集旅費ノ支給ヲ爲スヘキ官吏及公吏ハ平時ニ於テ召集旅費受領證書第五様式ヲ作り置クヘシ

第二十三條 郡市長ハ召集旅費區分表第六様式ニ通テ作り一通ハ聯隊區司令部ニ送付シ一通ハ郡市役所ニ備ヘ置キ爾後異動アル毎ニ之ヲ訂正シ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第二十四條 聯隊區司令官ハ前條ノ區分表ヲ受ケタルトキハ之ヲ一表ニ製シ第六様式ニ準シ應召員ヲ編入スヘキ諸部團隊長ニ送付シ其ノ異動ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ

都度之ヲ通知スヘシ

他ノ師團ノ諸部團隊長ニハ動員ノ際之ヲ送付スルコトヲ得

第二十五條 諸部團隊長ハ前條ノ區分表ヲ受ケタルトキハ之ヲ保管シ歸郷旅費計算ノ用ニ供スヘシ

第二十六條 師團長ハ平時豫メ召集諸費仕拂請求書ヲ作り置クヘシ

第二十七條 仕拂命令官ハ平時ニ於テ仕拂命令發行ノ準備ヲ爲シ置クヘシ

第二十八條 陸軍大臣ハ平時ニ於テ召集諸費ノ豫算要求書及仕拂豫算計算書ヲ作り置キ充員召集若ハ補充召集ニ際シ其ノ要求書ハ大藏大臣ニ送付シ其ノ裁定濟ノ通知ヲ得テ即時當該師團長及仕拂命令官ニ令達シ其ノ計算書ハ大藏省、會計檢査院及仕拂命令官ニ送付ス

補充召集ニ際シ前回召集諸費ノ殘金ヲ以テ支拂ヲ爲シ能ハサルトキハ師團長所要ノ金額ヲ申請スルモノトス

第二十九條 師團長ハ前條ノ令達ヲ受ケタルトキハ動員ノ區分ニ應シ召集諸費概算

表ノ金額ニ基キ現金前渡ノ仕拂ヲ當該仕拂命令官ニ請求スヘシ

第三十條 仕拂命令官ハ前條ノ請求書ヲ調査シ直ニ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ送金ニ係ハルモノハ電信ノ便アレハ電信送金ト爲スヲ要ス

第三十一條 出納官吏及分任出納官吏前條ノ仕拂命令ヲ受ケタルトキハ現金ヲ受領シ所要ノ仕拂ヲ爲スヘシ其ノ召集旅費ノ支給ニ爲ストキハ第二十二條ノ受領證書氏名ノ下ニ捺印セシムヘシ若シ印章ヲ携帯セサル者アルトキハ捺印セシムルモ妨ナシ

前項ノ受領證書ニ記載シタル者ニシテ前渡金ノ決算ヲ爲ス迄ニ旅費ヲ支給セサル者アルトキハ朱線ヲ以テ其ノ氏名ヲ塗抹シ證印ヲ捺スヘシ

第三十二條 充員召集補充召集實施ニ方リ其ノ諸費ニ係ル事務ハ晝夜ヲ分タス之ヲ處辨シ其ノ通達ニハ至急官報ノ電信、使丁等確實迅速ノ方法ヲ用キルモノトス其ノ使丁ヲ用キルトキハ一時間ニ一里半ノ行進速度ヲ以テ基準トス

第三十三條 前條ノ電信ヲ受領シタル者ハ其ノ電信ノ全文ヲ至急官報ヲ以テ返電ス

ヘシ

第三十四條 充員召集補充召集實施ニ方リ其ノ諸費ニ係ル諸部團隊官衙及公署ノ往復書類ニハ動ノ字ヲ冠シタル番號ヲ附スルモノトス但シ必要ニ應シ動ノ字ノ下ニ他ノ文字ヲ加フルコトヲ得

第三十五條 充員召集補充召集實施ニ方リ其ノ諸費ニ係ル文書ヲ發送スルニハ動員用封筒第七様式ヲ用ウヘシ其ノ文書ヲ受領シタル者ハ封筒上ニ設ケタル位地ニ受領時刻ヲ記入シ捺印ノ上返付スヘシ但シ本人ニ代テ受領シタル者ハ其ノ氏名ヲ記シ捺印スヘシ

第三十六條 出納官吏ハ前渡金受領ノ日ヨリ三十日內ニ會計檢査院ニ提出スヘキ仕拂計算書及證憑書類ヲ仕拂命令官ニ送付シ其ノ仕拂殘金ハ仕拂命令官ノ返納告知書ヲ得テ金庫ニ納付スヘシ但シ返納告知書ヲ受ケサル前ニ於テ嗣後ノ召集アルトキハ其ノ殘金ヲ以テ支拂ヲ爲スヘキモノトス

分任出納官吏ノ仕拂計算書及證憑書類ハ主任出納官吏ニ提出シ該官吏ハ自己ノ計

算ニ併算スルモノトス

第三十七條 召集旅費ハ本籍地ヨリ到着地迄ノ里程ニ應シテ本籍地所屬ノ旅費支給區域ニ於ケル出納官吏ヨリ支給スルモノトス但シ必要ニ應シ本籍地支給區域外最寄ノ旅費支給所ニ於テ支給スルコトヲ得

演習召集又ハ教育召集中他ノ部隊ノ充員召集及補充召集ニ應スヘキ者ノ召集旅費ハ甲乙部隊間ノ順路ニ依リ演習召集又ハ教育召集部隊ニ於テ支給スヘシ其ノ部隊動員セサル場合ニ於テハ其ノ召集旅費ハ應召員本籍所管聯隊區司令官ノ請求ニ基キ充員召集及補充召集部隊所管ノ師團司令部ヨリ送付スルモノトス

第三十八條 到着地ニ到着シタル後ニ於テ召集旅費ヲ支給スル場合ニ於テハ召集部隊又ハ部隊ヨリ集合場ニ派遣シタル出納官吏又ハ分任出納官吏ヨリ支給スルヲ例トス

第三十九條 集合場ニ到着スヘキ應召員ニシテ事故ニ因リ直ニ召集部隊ニ到着スヘキ者其ノ他事故ニ因リ更ニ旅費ノ支給ヲ受クヘキ者ハ其ノ召集旅費ノ支給ヲ受ク

へキ出納官吏又ハ分任出納官吏若ハ其ノ所在地最寄ノ出納官吏又ハ分任出納官吏ニ就キ其ノ旅費ノ支給ヲ受クヘシ

前項ニ依リテ召集旅費ヲ支給シタル者ハ直ニ其ノ金額氏名ヲ應召員ノ到著スヘキ部隊ニ通知スヘシ

第四十條 召集部隊長ハ途中ニ於テ傷痍疾病ニ罹リタル應召員ニ歸郷ヲ命スル場合ニ於テハ該部隊ヨリ其ノ滞在中ノ日當及歸郷旅費召集旅費ノ剩ヲ支給スルモノトス但シ應召員所在地ノ召集諸費出納官吏又ハ分任出納官吏ニ於テ之ヲ支給シ得ルトキハ其ノ旨ヲ通知シ之ニ支給ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十一條 應召員中召集旅費ヲ受領シ傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ因リ該旅費ノ返納ヲ要スルトキ第三十六條ノ決算後ニ在テハ仕拂命令官ヨリ其ノ徴收ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第四十二條 復員後ニ於テハ更ニ召集諸費概算表ヲ作ルモノトス但シ概算表調製以前ニ於テ充員召集ヲ實施スル場合ニ於テハ動員ヲ行ヒシトキニ於ケル第十五條又

ハ第十七條ノ概算表ニ依ルモノトス

第四十三條 臨時演習召集諸費支出ノ手續ハ第二條乃至第六條第八條第九條第二十九條乃至第四十一條ニ準據シ取扱フモノトス

第四十四條 定期演習召集、教育召集ニ應スル者ノ旅費及其ノ歸郷旅費應召中事故ヲ命セラレタル者及召集解並補缺召集旅費ハ第三條乃至第六條第八條第九條第二十九條乃至第三十一條第三十六條乃至第三十八條第四十條及第四十一條ニ準據シ

取扱フヘシ但シ旅費額ハ諸部團隊聯隊區司令部ニ於テ計算シ普通ノ手續ヲ以テ仕拂命令官ニ請求スルモノトス

第三十六條ニ依リ出納官吏ノ提出スヘキ仕拂計算書及證憑書類ハ聯隊區司令部ヲ經由スルモノトス

第四十五條 寄留地ニ於テ演習召集又ハ教育召集ノ許可ヲ受ケタル者並陸軍補充條例第五十九條第六十五條及第七十七條ニ依リ召集スルトキ之ニ支給スヘキ旅費ハ現住地ヨリ召集地迄ノ里程ニ應シ本人現住地所管ノ師團ヨリ支給スルモノトス

但シ召集中住居ヲ轉シタル者ト雖應召前ノ現住地迄ノ里程ニ應シテ歸郷旅費ヲ給ス

第四十六條 國民兵召集諸費ノ支出ニ關シテハ臨時之ヲ定ム

第四十七條 師團長ハ島嶼ニ於テ本規程ヲ實施スルコト能ハサルモノアルトキハ適

宜ノ方法ヲ規定シ陸軍大臣ノ認可ヲ請クヘシ

第四十八條 師團長ハ師管内ニ新ニ轉籍シ來リタル者アルカ又ハ臨時歸休等ノ爲更

ニ召集諸費ヲ計算シ第十五條又ハ第十七條ノ概算表ニ追加スルノ必要ヲ生セシト

キハ其ノ都度追加スヘキ金額ヲ第十五條ニ準シテ陸軍大臣ニ差出スヘシ

附則

本規程ハ發布ノ日ヨリ施行ス但シ明治三十三年ニ限り第五條ノ期日ハ師團長ニ於テ適宜之ヲ延期スルコトヲ得

第一様式

明治何年度 何師管何郡(市)召集諸費概算表

何年何年何日 何郡(市)役所圖

費目	金額		計
	何動員	補充召集	
出張旅費			
郵便電信料			
使丁賃金			
計			

一 何動員ノ何ハ動員ノ區分ヲ示ス符號トス第二第三様式同シ

二 他ノ師團ノ召集ニ應スヘキ者アルトキハ師團毎ニ各別表ニ作ルヘシ第二第三様式同シ

三 船舶料等實費ヲ支給スルモノニシテ季節ニ依リ金額ニ高低アルモノハ其ノ最高價ヲ以テ計算スヘシ第二第三様式同シ

四 出張旅費ハ往復里程及滞在日數ニ依リ計算スルモノトス

五 出張旅費トハ召集諸費支給ニ要スル官吏ノ旅費ヲ云フ

六 本表ニ記載スルコト能ハサル事項ハ適宜備考欄ヲ設ケテ記載スヘシ以下諸様式同シ



但シ召集中住居ヲ轉シタル者ト雖應召前ノ現住地迄ノ里程ニ應シテ歸郷旅費ヲ給ス

第四十六條 國民兵召集諸費ノ支出ニ關シテハ臨時之ヲ定ム

第四十七條 師團長ハ島嶼ニ於テ本規程ヲ實施スルコト能ハサルモノアルトキハ適宜ノ方法ヲ規定シ陸軍大臣ノ認可ヲ請クヘシ

第四十八條 師團長ハ師管内ニ新ニ轉籍シ來リタル者アルカ又ハ臨時歸休等ノ爲更

ニ召集諸費ヲ計算シ第十五條又ハ第十七條ノ概算表ニ追加スルノ必要ヲ生セシト

キハ其ノ都度追加スヘキ金額ヲ第十五條ニ準シテ陸軍大臣ニ差出スヘシ

附則

本規程ハ發布ノ日ヨリ施行ス但シ明治三十三年ニ限り第五條ノ期日ハ師團長ニ於テ適宜之ヲ延期スルコトヲ得

第一様式

明治何年度 何師管何郡(市)召集諸費概算表

何年何年何日  
何郡(市)役所團  
何師團ノ分

費區	目分	金額			計
		何動員	何召集	補充召集	
出張旅費					
郵便電信料					
使丁賃金					
計					

- 一 何動員ノ何ハ動員ノ區分ヲ示ス符號トス第二第三様式同シ
- 二 他ノ師團ノ召集ニ應スヘキ者アルトキハ師團毎ニ各別表ニ作ルヘシ第二第三様式同シ
- 三 船舶料等實費ヲ支給スルモノニシテ季節ニ依リ金額ニ高低アルモノハ其ノ最高價ヲ以テ計算スヘシ第二第三様式同シ
- 四 出張旅費ハ往復里程及滞在日數ニ依リ計算スルモノトス
- 五 出張旅費トハ召集諸費支給ニ要スル官吏ノ旅費ヲ云フ
- 六 本表ニ記載スルコト能ハサル事項ハ適宜備考欄ヲ設ケテ記載スヘシ以下諸様式同シ

第二様式

明治何年度

何聯隊區召集諸費概算表

第何師團何動員ノ分

何年何月何日

何聯隊區司令部

郡市	區	分	旅費		金額計	出納官吏官 (職)名	支出金庫
			上長官士官	下士兵卒補 充兵			
何市							
何郡							
何郡							
何聯隊區							
合計							

一 應召員ノ旅費ハ本籍地ヨリ編入部隊所在地若ハ集合場迄ノ里程ニ依リ計算スヘシ其ノ陸路海路二様アルモノハ陸路ニ依リ計算スヘシ

二 應召員ノ旅費ハ動員ノ區分ニ依リ召集旅費ノ出納官吏毎ニ現員ノ十分ノ二ニ當ル金額並集合場ニ到着スヘキ者ノ十分ノ一ハ直ニ召集部隊ニ到着スルモノトシ其ノ金額ヲ加算スヘシ但シ其ノ金額ハ現員中最遠隔ノ者ニ均シキ額ヲ以テ調査スヘシ

三 本表ハ出納官吏及金庫ヨリ現金直送ノ分任出納官吏ノ數ニ應シ各區畫ヲ増加シテ記載スヘシ第二様式モ之ニ準シ各區畫ヲ増加シテ記載スヘシ

四 他ノ聯隊區ノ郡市名ハ朱書スヘシ

第三様式

明治何年度 何師管召集諸費概算表

何年何月何日  
何師團司令部

府	何	何	何	何	計	金額		出納官吏官職名	支出金庫名
						何動員	何動員		
何市									何金庫
何郡									何金庫
何郡									何金庫
何聯隊區									何金庫
合計									何金庫

第四様式

明治何年度 何師管召集諸費概算表

何師團司令部

府	縣	郡	市	區	分	金	額	支出	金庫
						計	計	計	計
何府(縣)						計	計	計	計
合計						計	計	計	計

一 本表ハ充員召集補充召集ニ方リ各金庫ヨリ支出スヘキ總金額ヲ調査シ又兼テ金庫出納區域ニ相違ナキヤ否ヲ調査スル爲メ支出金庫別ニ調製スルモノトス故ニ  
 一金庫ノ出納區域内ニ在ル郡市區名ハ之ヲ一區畫内ニ記シ之ヲ一府縣ニ取纏メ  
 一師管一表ニ調製スルモノトス

二 前項ノ主意ナルニ依リ召集諸費ノ仕拂ヲ受クヘキ官衙、公署アルモ應名ヲ本表ニ掲ケス其ノ金額ハ該官衙公署所在地郡市區畫ノ金額ニ合算スルモノトス  
 三 第十八條ニ依リ大藏大臣ニ送付スルモノハ本様式ニ依ル  
 第五様式

召集旅費受領證書

何聯隊區何府縣何郡(市)(町)(村)

一金

何隊到著ノ部

内譯

住	島	郡	市	町	村	里	數	旅	費	官(兵種等級)	受領者氏名印
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	某

右之通支給候也

明治何年何月何日

出納官吏(分任出納官吏)氏

名印

一本證書ハ召集部隊毎ニ作ルモノトス

陸軍召集諸費支出規程



●太政官布告第四十三號 (明治十五年八月十二日)

徵發令

徵發令別冊ノ通制定ス

(別冊)

徵發令

第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動カスニ方  
リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス  
但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ准ス

第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ

第三條 左ニ記列スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ様ヲ有ス

- 一 陸軍卿海軍卿鎮臺司令官及ヒ鎮守府長官
- 二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ演習及ヒ行軍ノ  
軍隊長
- 三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令官艦隊司令官分遣艦長若クハ操練及ヒ航

海ノ艦隊司令官又ハ艦長

徵發令

第四條 徵發ス可キモノ、種類ニ依リ徵發區會社モ之ヲ定ムルコト左ノ如シニ准ス

一 第十二條第一項ハ 府縣

二 第十二條第二項及ヒ第三項ハ 郡區

三 第十二條第四項以下各項及ヒ第十三項各項ハ 町村

四 船舶會社所有ノ船舶及ヒ鐵道會社所有ノ汽車ハ 會社

第五條 徵發ス可キモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル

第六條 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店

長ニ付ス可シ

第七條 徵發書ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ

時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス

第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應ス可キ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キモノトス

第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモ

ノトス若シ其時期ニ違フトキハ府知事縣令郡區長戶長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メ

ニ生シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ

其處分ヲ爲スヘシ

第十條 徵發ヲ課セラレタルモノノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ藏匿シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證票ヲ府知事縣令郡區長戶長若クハ

停車場長船舶會社ノ店長ニ交付スヘシ

第十二條 徵發ス可キモノ左ノ如シ

一 米麥秣藪鹽味噌醬油漬物梅干及ヒ薪炭

二 乘馬馱馬駕馬車輛運搬ニ供スル獸類及ヒ器具

三 人夫

四 宿舍概圍及ヒ倉庫

五 飲水石炭

六 船舶

七 鐵道汽車

八 演習ニ要スル地所

九 演習ニ要スル材料器具

第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲クルモノ、外徵發ス可キ

モノ左ノ如シ

但平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス

- 一 造船所工作所及ヒ軍事ノ工作ニ要スル材料器具
- 二 職工鑛夫洗濯人ノ類
- 三 被服裝具艸鞋兵器彈藥船具寢具藥劑治療器械及ヒ繃帶具
- 四 水車搗春ノ類
- 五 病院

第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 皇族所用ノ車馬
- 二 外國公使館並ニ領事館ニ屬スル車馬
- 三 乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹
- 四 郵便用ノ車馬
- 五 公認セラレタル種牛種馬

第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 公務ニ屬スル廳署

二 皇族ノ邸宅

三 外國公使館領事館及ヒ其所屬館

四 鐵道電信郵便用ノ建造物

五 陸海軍將校並ニ同等官現在ノ家屋

六 博物館書籍館

七 病院盲啞院棄兒院

八 學校但臨戰合圍地境內ニ在リテハ此限ニ在ラス

九 製造場内機械室

第十六條 第十二條第二項ニ掲クルモノ、使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許

サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス

第十七條 第十二條第二項ニ掲クルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用  
スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルコトヲ得ス但戰時若クハ時變ニ際シテハ  
六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得

第十八條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ合圍地境內ヲ除クノ外居住者ノ起臥及ヒ

營業ニ必用ナル場所ヲ徵用スルヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラ

第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編成トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム

第二十條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルコトアルヘシ

第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ移轉セシムルコトヲ許サス廐圍倉庫亦同シ

第二十二條 宿舍廐圍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給ス可シ但駐軍三日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス

第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乗載人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併セテ供給セシム

第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトアル可シ

第二十五條 第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルコトヲ得

第二十六條 第十二條第六項ニ掲クルモノヲ操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル但船橋及ヒ舢舨ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十二條第七項ニ屬スル汽車其屬具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ操業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル

第二十八條 第十三條第五項ニ掲クルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合圍地境內ニ在リテハ全ク明渡サシムルコトヲ得

第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送賃ヲ支辨セス

第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞シテ三ヶ月ヲ越ユルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條 賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事縣令郡區長戶長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求スヘシ

第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ付キ供給



者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ戸長ニ届出可シ其届出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越ユ可カラス若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限内持主若クハ操業者ニ於テ使用セシトキハ無効トス

一 西洋形船舶

七日間

二 地所

評價委員ノ告示スル時日間

三 其他ノ物件

一日間

第三十四條 第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ケ年間ノ平均價ヲ取り之ヲ定ム其平均價ノ取り難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者トヲ各個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ雇賃及ヒ借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラズ賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但此場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノヲ買上クルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置クヘシ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條 第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外左ノ區別ニ從フ

區別ニ從フ

一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃

二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乘載量五分ノ三ニ滿チタル以上ハ前項ノ例ニ準ス若シ之ニ滿タサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃

三 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額

第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航泊實費及ヒ

船舶ノ損料トス其損料ハ一ヶ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス

第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ

第四十二條ノ損料トス但船橋及ヒ解船ニ充テタルモノ、賠償金額ハ第四十一條第

三項ニ准ス

第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外平常

ノ定賃トス

第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料物件ニハ

其地平常ノ代價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價

委員ノ評定ニ任ス

第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變

更シタルトキニ限り賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料

ヲ賠償ス

第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價

若クハ損料ヲ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定

ニ任ス

第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十

六條ヲ適用ス

第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フテ賠償ス全ク明

渡サシムルトキハ第三十九條ノ例ニ准ス

第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ規避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘

導シタルモノハ一年以上以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附

加ス

第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長停車場長船舶會社ノ店長

其處置ヲ爲サ、ルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ

罰金ヲ附加ス其懈怠ニ出ルモノハ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲忘ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル

官憲徵發書ヲ出シタル片ハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

●太政官布達第二十六號 (明治十五年十二月十八日)

徵發事務條例

徵發事務條例別冊ノ通之ヲ定ム

(別冊)

徵發事務條例

第一條 徵發事務條例ハ徵發令ニ基キ實際取扱ノ規準ヲ定ムルモノトス

第二條 陸軍若クハ海軍官憲ハ徵發區ノ大小遠近及ヒ供給方ヲ酌量シ供給ヲ受ク可  
キ日時ヲ豫定シテ徵發書ヲ出ス可シ

第三條 徵發書ノ書式ハ附録第一號ノ例ニ準ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ電信ヲ  
以テ徵發スルコトヲ得

第四條 徵發令第三條第二項及ヒ第三項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長艦隊司  
令長官ハ時機ニ依リ其部下ノ各團長若クハ各艦隊司令官ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ分  
任スルコトヲ得

第五條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長第  
三項中ニ掲クル特命司令官艦隊司令官分遣艦長ハ其獨立中ニ限り徵

發書ヲ出スノ權ヲ有ス故ニ師團長艦隊司令官ト雖モ軍團若クハ二艦隊以上ニ編制セラレタルハ徵發書ヲ出スノ權ナシ其軍團長若クハ艦隊司令長官ノミ之ヲ有ス

第六條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル演習及ヒ行軍ノ軍隊長トハ諸團隊ヲ統フル長以上ヲ言ヒ第三項中ニ掲クル操練及ヒ航海ノ艦隊司令官トハ諸艦ヲ統フル長ヲ言ヒ艦長トハ先任艦長又ハ獨立艦長ヲ言フモノニシテ其長ノミ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス但陸軍演習若クハ海軍操練ノ時一ノ總指揮官ヲ置クト雖トモ其部下ノ團隊若クハ各艦往返發著ノ地ヲ異ニスルトキハ往返中ニ限り其團隊長若クハ艦長各自ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

廿三年九月勅令第九十六號參看

徵發令第三條第二項中ニ掲クル師團長ニハ近衛總督、旅團長ニハ屯田兵司令官ヲ包含ス

第七條 徵發ニ應シタル人員ハ勉メテ彈丸ノ達セサル場所ニ於テ之ヲ使用ス可シ

第八條 徵發物件其徵發ヲ課セラレタル地ニ現在スルモ其所有者又ハ其支配人不在ナルトキハ戶長及ヒ證人二人 其町村内ニ住スル親族又ハ預リ主又ハ同立會ノ上其物件ヲ調査シ供給セシム可シ

第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ徵發令第十二條第六項第七項第八項第十三條第

一項中造船所工作所第四項第五項ノ物件及ヒ第二十條ノ場合ヲ除クノ外其現在ノ所有品ヲ供給セサルモ便宜ニ從ヒ他ノ同品種ノモノヲ以テ換給スルコトヲ得其徵發ニ應ス可キ人員亦同シ

第十條 徵發書ハ徵發令第六條ニ依リ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シト雖モ臨戰若クハ合圍ノ地ニ在テ時機切迫シタル場合ニ於テハ府縣ニ付ス可キモノヲ郡區又ハ町村ニ付シ郡區ニ付ス可キモノヲ町村ニ付シ店長ニ付ス可キモノヲ船長ニ付スルコトアルヘシ

右ノ手續ヲモ爲ス能ハサル場合ニ於テハ徵發書ヲ出スノ權アル官憲ヨリ直ニ人民ニ賦課シテ徵發スルコトアル可シ但此場合ニ於テハ徵發書ヲ用ヒス本人ニ受領證票ヲ交付スルニ止ル

本條ノ場合ニ於テハ徵發ヲ行ヒタル官憲定例ノ順序ニ從ヒ府知事縣令郡區長戶長若クハ店長ニ其旨ヲ通知スヘシ

徵發令第十二條第二項ノ物件ニ限り場合ニ依リ徵發書ヲ北海道廳長官府縣知事ニ付スルコトヲ得

第十一條 徵發ノ命令ヲ受ケタルモノハ晝夜ヲ別タス速ニ其處置ヲ爲ス可シ

第十二條 徵發書ヲ受ケタル徵發區ニ於テ賦課ノ數ニ不足スルトキハ速ニ供給ヲ受ケ可キ官憲ニ報告ス可シ

町村ニシテ郡區長ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケ郡區ニシテ府知事縣令ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケタルトキハ其賦課ノ數ニ滿ル能ハサルニ於テハ戶長ハ郡區長ニ郡區長ハ府知事縣令ニ速ニ其旨ヲ報告ス可シ但此場合ニ於テハ陸海軍官憲若クハ府縣廳郡區役所ヨリ吏員ヲ派出シ檢査セシムルコトアル可シ

郡區長府知事縣令其報告ヲ受ケタルトキハ郡區長ハ他ノ町村ニ府知事縣令ハ他ノ郡區ニ賦課シテ供給ヲ完全セシム可シ

第十三條 府知事縣令徵發令第十二條第一項ニ係ル徵發書ヲ受ケタルトキハ速ニ其賦課シタル郡區ノ名及ヒ量數ヲ陸海軍官憲ニ報告ス可シ

第十四條 府知事縣令郡區長及ヒ戶長ハ徵發令第八條ニ從ヒ徵發ニ應スル便宜ノ方法ヲ豫定ス可シ

第十五條 徵發ヲ課セラレタルモノ供給ノ時期ニ違ヒタルトキハ徵發令第九條ニ照シ處分ス可シト雖トモ正當ノ事由ヲ證明シタルトキハ辨償セシムルノ限ニアラス

第十六條 徵發令第十一條ニ掲クル受領證票ハ附錄第二號雛形ニ依リ調製ス可シ

第十七條 受領證票ハ徵發令第十二條第一項第五項ノ物件及ヒ總テ買上ケニ屬スル物件ニ係ルトキハ領收ノ際直ニ之ヲ交付シ其他ハ徵發令後之ヲ交付ス可シ但徵發令後交付スル場合ニ於テハ同令第十二條第四項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項及ヒ第五項ニ掲クルモノヲ除クノ外當初領收ノ際假受領證ヲ交付ス可シ

第十八條 徵發令第十二條第二項第三項及ヒ第十三條第二項ニ掲クルモノヲ宿泊セシメテ連日使用シ若クハ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキ並ニ同令第十二條第六項ニ掲クルモノ浮船及ヒ船橋ヲ除クヲ借切トシテ徵發令スルトキハ特ニ本人若クハ操業者ニ受領證票ヲ交付スルコトアルヘシ

第十九條 徵發令第十五日以上ニ及フモノハ一個月ニ一回若クハ二回期ヲ定メテ受領證票ヲ交付ス可シ

第二十條 徵發令第十二條第一項ニ掲クルモノ、徵發ヲ賦課スルハ其物品ノ營業者ヲ先トシ尙ホ完全セサルトキニ限り他ノ人民ニ賦課ス可シ其賦課ニ就テハ其地方及ヒ所有者ヲシテ困乏ニ陥ヒラサシムル爲メニ相當ノ分量ヲ各所有者ノ許ニ殘シ置ク可シ其分量ハ其地運送ノ便否及ヒ生計ノ現況ヲ酌量シテ之ヲ定ム可シト雖

モ此ニ其最下限ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 營業者所有ノ物品ハ徵發書ノ日付ヨリ前十日間ニ其府縣内ニ賣拂ヒタル量但所有者ノ帳簿ニ基キ算定ス可シ

二 他ノ人民所有ノ物品ハ其一家ニ要スル十日間ノ量

三 秣藁ハ其家畜ニ要スル七日間ノ量

第二十一條 郡區市長島司ハ陸軍省ノ定ムル雛形ニ依リ各區域内ニ於ケル家屋、人口、職業、建物、船舶等ニ關スル表ヲ調製シ之ヲ北海道廳府縣廳ニ差出スヘシ

三十一年  
十一月  
勅令  
第三百  
三十三號  
參看

鐵道局長及鐵道會社長ハ陸軍省ノ定ムル雛形ニ依リ毎年十二月三十一日調ヲ以テ鐵道表ヲ製シ翌年三月三十一日限り同省ヘ送付スヘシ又新ニ鐵道ヲ布設シ若ハ改築シタルトキハ其時時鐵道表ヲ製シ陸軍省ヘ送付スヘシ

第二十二條

第二十三條

第二十四條 北海道廳長官府縣知事ハ陸軍省ノ定ムル雛形ニ依リ三箇年毎ニ牛馬、車輛及同屬具表及物産收穫表ヲ製シ郡區市長島司ヨリ差出シタル表ト共ニ翌年三月三十一日限り陸軍省ヘ送付スヘシ

削  
除  
前

第二十五條 北海道廳長官府縣知事ハ海軍省ノ定ムル雛形ニ依リ工場表ヲ製シ毎年三月三十一日限り海軍省ヘ差出スヘシ

北海道廳長官府縣知事ハ海軍省ノ定ムル雛形ニ依リ汽船表ヲ製シ毎年三月三十一日限り新ニ造リ若ハ新ニ買入タル船舶アル時ハ其時時海軍省ニ送付スヘシ但シ海軍大臣ハ便宜ニ依リ船舶會社ヲシテ直ニ送付セシムルコトヲ得

第二十六條 徵發令第十二條第二項第六項第七項ニ掲クルモノハ總テ使用ノ爲メニ必用ナル屬具ヲ併セテ供給スヘキモノトス故ニ其屬具ニ對スル賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十七條 徵發令第十二條第六項ニ掲クル船舶中郵便船ニ限り其通信ノ用ニ供スル間ハ之ヲ借切ルコトヲ得ス又出船ノ定期若クハ航路ヲ變シテ徵用スルコトヲ得ス

第二十八條 徵發令第十八條中居住者ノ起臥ニ必要ナル場所トハ寢所及ヒ庖廚ヲ指シ營業ニ必要ナル場所トハ商估ノ店舖農工ノ仕事場ヲ言フ又旅店等トハ料理店貸座敷貸廐ヲ包含ス

第二十九條 宿舍ノ廣狹ハ徵發令第十九條ニ從ヒ臨時ニ定ムルモノナリト雖モ戶長ニ於テ賦課ノ際標準ト爲ス可キモノヲ概定スルコト左ノ如シ

一 麻署

陸海軍官憲ヨリ指示スル所ノ室若クハ家屋

二 將官其參謀部ト共ニ

一家屋

三 上長官又ハ同等軍屬一名

一室

四 士官又ハ同等軍屬二名

一室

五 下士又ハ同等軍屬一名

一疊半乃至二疊

六 卒又ハ同等軍屬一名

一疊乃至一疊半

七 徵發ニ應シタル人員三名

二疊

第三十條 戶長ハ陸海軍ノ宿割主任官ニ商議シテ適宜ニ宿舍ノ配當ヲ定ムヘシ

第三十一條 徵發令第二十一條ニ從ヒ町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許

サスト雖モ若シ該家ニ病者死者等アルトキハ戶長他ニ相當ノ宿舍ヲ設ケテ轉移ヲ

請求スルコトヲ得但之カ爲メ徵發令第廿二條ニ掲クル日限ヲ更新スルモノニアラ

ス

第三十二條 徵發令第二十二條ニ從ヒ人馬ニ供給ス可キ食飼ノ定量大率于左ノ如シ

ト雖モ陸海軍給與ノ規則ニ依リ定量以內ヲ以テ臨時ニ變換或ハ減少スルコトアルヘシ

一人 精米每食二合 朝夕飯一汁一菜漬物 午飯一菜漬物

二 馬 駐軍中 朝大麥二升秣藪五百目喰藁百五十目 晝秣藪五百目喰藁百五十

目夕大麥二升秣藪五百目喰藁二百目

演習及ヒ行軍中 朝大麥二升秣藪五百目 晝大麥一升 夕大麥二升秣藪

一貫目喰藁五百目

小麥ヲ大麥ニ喰藁ヲ秣藪ニ代用スルトキ 朝小麥一升喰藁一貫目 晝小

麥五合 夕小麥一升五合喰藁二貫目

搗麥又ハ裸麥ヲ大麥ニ喰藁ヲ秣藪ニ代用スルトキ 朝搗麥又ハ裸麥一升

喰藁一貫目 晝搗麥又ハ裸麥一升夕搗麥又ハ裸麥二升喰藁一貫目

寢藁ハ軍馬一頭ニ付一日一貫目ヲ要スルモノトス

第三十三條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ室内所要ノ燈火並ニ其地ノ慣用ニ從

ヒ地燼若クハ火鉢薪炭共ニ每室ニ一個ヲ給ス可シ其賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含ス

第三十四條 寢具ノ徵發ニ係ル賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含セス徵發令第四十八

條ニ從ヒ賠償ス

第三十五條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノ公有家屋社寺亦同シ 食飼ニ供ス可キ物品又ハ手

傳人不足シ供給ヲ爲シ能ハサルノ證アルトキハ戶長ニ於テ賄ノ受負ヲ立ツル歟若クハ物品及ヒ手傳人ヲ其本人ニ供スル等ノ取扱ヲ爲シ其方法ハ本條例第十四條ニ准ス可シ

第三十六條 町村ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ニ要スル食飼ノ物品不足スルトキハ戶長ニ於テ其物品ヲ供ス可シ但航海先ニ於テハ本條例第三十七條ニ准シテ處分ス可シ

第三十七條 會社ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ノ食飼ヲ供給スルコト能ハサルヲ證明スルトキハ現品ヲ官給シ其費用ハ賠償金ヲ以テ差引ヲ立ツ可シ

第三十八條 食飼ノ定賃ナキ船舶ヲ徵用シ船主船長ヲシテ其食飼ヲ供給セシムルトキハ陸海軍官憲ニ於テ其時時賠償金額ヲ定ム可シ其借切トシテ徵用シタルトキ亦同シ

第三十九條 徵發物件ノ差出場所ハ各徵發區内ニ設クルヲ定例トス但時宜ニ依リ徵發區外ニ設クルコトヲ得

差出場所ハ陸海軍官憲之ヲ指定ス

第四十條 徵發區ハ徵發令第三十條ニ從ヒ徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルノ義務アルヲ以テ之カ爲メニ生シタル費用ハ其區ノ負擔トスヘキモノトス但差出場所ヲ徵發區外ノ地ニ設ケタルトキ其區外ニ係ル輸送賃ハ當該官憲ヨリ賠償スヘシ

第四十一條 郡區長ハ徵發人馬ノ供給ヲ便宜ニセンカ爲メ豫テ隣郡區長ト商議シ近傍町村ヲ適宜ニ割合ヒ組合町村ヲ定ムルヲ得

第四十二條 賠償金請求ノ月日及ヒ場所ハ供給ヲ受ケシ陸海軍官憲ヨリ之ヲ其府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ指示ス可シ

第四十三條 府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ附錄第六號ノ例ニ准シ賠償金計算書ヲ調製シ陸海軍官憲ヨリ交付ノ受領證票ヲ添ヘ其請求ヲ爲ス可シ但徵發令第三十六條及ヒ第二十八條ニ掲クルモノアルトキハ其計算書ニ別項ヲ設ケテ差引ヲ立ツ可シ又評價ニ屬スル件目ノ賠償ハ別途ニ支給スルヲ以テ該件目ニ就テハ評價ノ二字ヲ記載ス可シ

第四十四條 徵發令第三十一條ニ定ムル三箇月ノ期限ハ受領證票ヲ交付シタル月ヨリ起算ス但陸海軍官憲ヨリ指示セシ請求ノ月日若クハ場所ヲ其請求者ニ於テ誤リ



タル爲メ又ハ賠償金計算書ノ違算若クハ不合式ニ依リ推問往復ノ爲メニ消費シタル時日ハ算入セス

第四十五條 徵發令第十二條第二項及ヒ第三項ノ徵發ニ係ルモノヲ終日若クハ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ使用スルトキハ日割ヲ以テ賠償シ其他ノ場合ニ於テハ里程ニ應シテ賠償ス

若シ差出場所ニ集合シタルモノ官ノ都合ニテ不用トナリタルトキハ日割ヲ以テ賠償ス可キモノハ半日分ヲ給シ里程ニ應シテ賠償ス可キモノハ其半額ヲ給ス

第四十六條 徵發物件ノ毀損シタルトキハ徵發令第三十三條ニ從ヒ其使用ヲ主管スル陸海軍官憲ニ届出可シ若シ引渡ヲ受ケタル後毀損ヲ發見セシトキハ其引渡ヲ爲セシ陸海軍官憲ニ届出可シ其官憲既ニ出發セシトキハ戸長ニ届出可キモノトス

第四十七條 毀損ノ届出ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ直ニ之ヲ調査シ其毀損果シテ使用ヨリ生シタルモノト檢定シタルトキハ其賠償金額ニ就キ供給者ト商議ス可シ若シ調和セサルトキハ評價委員ニ付ス可シ

戸長若シ毀損ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ檢査シ其調査書ヲ作り供給者ノ請求金額アルモノハ之其關係ノ陸海軍官憲ニ差出ス可シ但調査書ニハ毀損ノ事由實況並ニ請求

金額ニ係ル自己ノ意見ヲ記ス可シ

第四十八條 徵發令第三十三條ニ掲クル期日ヲ超エタル届出ハ之ヲ受理ス可カラス但變災厄難ニ罹リタルノ確證アルモノハ其變災厄難ヲ免レタル時ヨリ期日ヲ算ス可シ

第四十九條 徵發令第三十四條ニ從ヒ北海道廳長官府縣知事ハ陸軍省海軍省協議ノ上定ムル雛形ニ依リ其管下市場三箇所以上ノ前三年間ノ平均物價表ヲ調製シ毎年三月三十一日限リ陸海軍省ニ差出スヘシ

第五十條 徵發令第三十五條中平常ノ賃價トアルハ戰時若クハ事變ニ際シテハ勿論演習又ハ行軍ノ際ニ於テモ之カ爲メ臨時ニ騰貴セサル以前ノ賃價ヲ言フ

徵發令中平常ノ賃價トアルモノハ皆此例ニ依ル

第五十一條 徵發令第三十五條及ヒ第三十八條ニ掲クル平常ノ賃價雇賃借賃ハ郡區長確認ノ上供給ヲ受クル所ノ陸海軍官憲ニ申出可シ

其他徵發令中ニ掲クル平常ノ賃價損料及ヒ代價ハ戸長ヨリ陸海軍官憲ニ申出可シ

第五十二條 徵發令第三十九條ニ從ヒ陸海軍省ニ於テ定ム可キ所ノ賠償金ハ兩省同額タル可シト雖モ本條第三十二條ニ從ヒ臨時ニ食飼ノ定量ヲ變換若クハ減少スル

ニ於テハ其現量ニ從ヒ賠償ス可シ

第五十三條 徵發令第四十二條中航船實費トハ石炭油脂其他日用消耗品ノ航船中現ニ消耗シタルモノノ代價ニシテ其物品ヲ船舶ニ積入レタルトキノ現價ニ依リ計算ス可キモノトス

第五十四條 徵發物件ノ毀損其使用ノ爲メニ非サルモノ及ヒ操業者ノ過失ニ出ルモノハ賠償セス但船舶ヲ借切トシテ徵用シタルトキ並ニ物件ヲ操業者ト分別シテ徵用シタルトキノ毀損ハ總テ之ヲ賠償ス

第五十五條 評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名徵發區ニ從ヒ府縣郡區吏員若クハ戸長一名及ヒ其町村評價場ノ住民ニシテ其事件ニ熟達シタルモノ若シ熟達シタルモノナキトキハ他町村ノ住民ヲ二名若クハ四名ヲ以テ編制シ其評價ハ多數ニ依テ決ス鐵道會社船舶會社ニ屬スルモノ及ヒ大演習ノ爲メニ生シタル場所ノ損害ニ係ル評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名府縣吏員一名及ヒ其事件ニ熟達シタル人民二名若クハ四名ヲ以テ編制ス

第五十六條 評價委員ニ採用ス可キ人民ハ其事件ニ關係ナキモノニシテ地方吏員若クハ戸長ニ於テ選舉ス可キモノトス其選舉セラレタルモノハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルヲ得ス

第五十七條 其選舉セラレタルモノニハ陸軍若クハ海軍ヨリ該府縣會議員ト同一ノ旅費日當ヲ給ス可シ

第五十八條 評價ノ爲メ府縣郡區吏員若クハ戸長ノ派出ヲ要スルトキハ其事件ニ關係ノ陸海軍官憲ヨリ之ヲ府知事縣令郡區長若クハ戸長ニ通達ス可シ

第五十九條 評價ノ方法ハ評價ス可キモノノ種類ニ從ヒ精密ニ調査シ其價額ヲ評定スルヲ要トス左ニ地所損害ニ關スル評價ノ一例ヲ掲ク

演習ノ爲メ地所ノ損害ヲ届出タルトキハ評價委員ニ於テ實況ヲ查覈シ其請求スル所ノ賠償金額ノ當否ヲ審ニシ相當ナルトキハ直ニ之ヲ認可シ若シ其請求ノ金額定マラス或ハ過當ナリト認ムルトキハ實測スヘシ

評價委員ハ評價畢ルノ後左ニ掲クル要目ニ准シ所有主毎ニ評價明細書ヲ製ス可シ

- 一 評價ノ事項及ヒ事由
- 二 委員ノ氏名
- 三 地面ノ廣袤ハ何ヲ以テ定メタルヤ何圖面何書類ニ依リタ金額ノ算出ハ如何ナル方法ニ依リタルヤ其季ノ收穫皆無タルニ依リ其植物ノ前何年平均ヲ以テ賠償金ヲ定メタル歟其損害ノ度幾分ニ止マリ其幾

分ニ係ル賠償金額ヲ全部收穫ノ前何年平均額ヨリ算出シタルカ植物生熟ノ度ニ從ヒ其平均收穫量ニ應シ賠償ス可キ金額中ヨリ幾分ノ手間賃及ヒ肥料ヲ扣除シタル歟又永存ノ草木ニシテ毎年收穫アルモノ損害ヲ受ケタルトキハ其損害ノ收實ニ止マルト枝幹ニ係ルモノトニ從ヒ一年若クハ幾年分ノ收穫ヲ見込ミ賠償金額ヲ定メタル歟ノ類

第六十條 評價委員ハ評價明細書ヲ製シ府知事縣令郡區長若クハ戶長ニ交付ス可シ府知事縣令郡區長若クハ戶長ハ其明細書ニ依リ賠償金計算書ヲ作り陸海軍官憲ノ指示スル場所ニ就テ賠償金額ヲ請求ス可シ

附錄第一號ノ一

徵發書

一 廨署用 將官幾人 上長官幾人  
 士官幾人 下士幾人 兵卒幾人  
 右ハ某月某日ヨリ某月某日迄徵用  
 一 廩圍 幾匹分  
 右、  
 一 倉庫 幾坪  
 右、

一 舢舨

幾艘

右、

一 何々

右、

前書ノ通徵用候條其町(村)ニ於テ遲滯ナク供給可致候事

年 月 日

何々長 官 姓

名 印

某府(縣)某郡(區)

某町(村)戶長役場宛

備考 徵發書ノ料紙ハ美濃罫紙タル可シ

附錄第一號ノ二

徵發書

一人夫

幾人

右内

幾人ハ某月某日時某地ニ差出シ某地迄徵用  
 幾人ハ某月某日時某所ニ差出シ幾日間徵用

一 馱馬

幾匹 馬士共

右内

幾匹、、、

幾匹、、、

一 何々

右内

何、、、

一 何々

右内

何、、、

前書ノ通徵用候條其郡(區)ニ於テ遲滯ナク供給可致事

年月日

何々長

官姓

名印

某府(縣)

某郡(區)役所宛

附錄第一號ノ三甲

徵發書

一 汽船

船名

一 西洋形風帆船

船名

右某月某日ヨリ借切徵用候條某港ニ於テ遲滯ナク供給可致事

年月日

何々長

官姓

名印

某會社某地店長宛

附錄第一號ノ三乙

徵發書

一 將校並同等官

幾名

一 下士卒並同等

幾名

一 馬

幾匹

一 車

幾輛

一 荷物畧計

幾噸

右ハ某月某日某港出帆ノ何號船ヲ徵用シ(又ハ其社所有ノ何號船ヲ徵用)

徵發事務條例

子二〇

シ某月某日某港出帆) 某港ニ運送爲致候條遲滯ナク供給可致事

年 月 日

何々長 官 姓 名 印

某會社某地店長宛

附錄第一號ノ四

徵發書

一上等 幾名内幾名ハ某地迄餘ハ某地迄

一中等 幾名内、、、、

一下等 幾名内、、、、

一馬 幾匹内幾匹ハ某地迄餘ハ某地迄

一車 幾輛内幾輛ハ、、、、

一荷物畧計 幾噸内幾噸ハ、、、、

右ハ通常(特別)瀛車ヲ徵用シ某月某日時發車ヲ以テ某地へ運送候條遲滯  
ナク供給可致事

年 月 日

何々長 官 姓 名 印

鐵道會社某地停車場長宛

附錄第一號ノ五

徵發書

一玄米 幾百石

一精米 幾拾石

一薪 幾貫目

一何々

一何々

右徵用候條某月某日限リ供給可有之事

年 月 日

何々長 官 姓 名 印

某府(縣)宛

附錄第一號ノ六

徵發書

一某府(縣)某郡(區)某町(村)近傍

右某月某日演習ノ爲メ徵用候事

年 月 日

何々長

徵發事務條例

子二一

某町(村)戸長役場宛

官 姓 名 印

附録第二號ノ一

受領證票

一 宿舍 廨署用 將官幾人 上長官幾人  
士官幾人 下士幾人 兵卒幾人

右ハ某月某日ヨリ某月某日迄徵用

一 廠圍 幾匹分

右、

一 倉庫 幾坪

右、

一 解船 幾艘

右、

一 何々 幾匹分  
右、前書ノ通徵用候也

年 月 日

何々長

官 姓

名 印

某府(縣)某郡(區)

某町(村)戸長役場宛

備考 受領證票ハ總テ存留證票ノ式タルヘシ

附録第二號ノ二

受領證票

一人夫 幾人

右内

幾人ハ某月某日時某地ニ差出シ某地迄徵用

幾人ハ某月某日時某所ニ差出シ幾日間徵用

一 駄馬 幾匹 馬士共

右内

幾匹

幾匹

一 何々

右内

何、、、、  
 一何々  
 右内  
 何、、、、  
 前書ノ通徴用候也  
 年月日  
 何々長  
 官姓  
 名印  
 某府(縣)  
 某郡(區)役所宛

附録第二號ノ三甲

受領證票

一汽船  
 一西洋形風帆船  
 右ハ某月某日ヨリ某月某日迄借切徴用  
 前書之通徴用候也  
 年月日  
 何々長  
 官姓  
 名印  
 某會社某地店長宛

附録第二號ノ三乙

受領證票

一將校並同等官  
 一下士卒並同等  
 一馬  
 一車  
 一荷物畧計  
 右ハ某月某日某港出帆ノ何號船ヲ某月某日某港迄徴用  
 前書ノ通徴用候也  
 年月日  
 何々長  
 官姓  
 名印  
 某會社某地店長宛

附録第二號ノ四

受領證票

一上等  
 一中等  
 幾名内幾名ハ某地迄餘ハ某地迄  
 幾名内、、、

一下等 幾名内、  
 一馬 幾匹内幾匹、某地迄餘、某地迄  
 一車 幾輛内幾輛、  
 一荷物畧計 幾噸内幾噸、  
 右ハ某月某日時通常(特別)汽車徵用  
 前書之通徵用候也

年月日 何々長 官 姓 名 印  
 鐵道會社某地停車場長宛

附錄第二號ノ五

受領證票

一玄米 幾百石  
 一精米 幾拾石  
 一薪 幾貫目  
 一何々  
 一何々  
 前書ノ通徵用候也

年月日 何々長 官 姓 名 印  
 某府(縣)宛

附錄第六號

賠償金計算書

一宿泊代 第何號證票 何拾何圓  
 一廐圍代 同上 何拾圓  
 一駄馬何匹 同上 何圓  
 一人夫何人 第何號證票ノ内 何圓  
 一六里外人夫何人 同上 三日 何圓  
 一荷積大七車何輛 第何號證票 何圓  
 一同大八車何輛 同上 何圓  
 一同中車何輛同小車何輛 第何號證票ノ内 評 價  
 右七廉合計金何百何拾何圓賠償金トシテ御渡相成度候也

年月日 府知事(縣令)郡區長(戶長) 姓 名 印  
 停車場長(船舶會社店長)  
 何地何會計官 御 中



●陸軍省令第三十九號 (明治三十三年十一月十三日)

明治三十一年陸軍省令第十八號徵發事務條例第二十一條第一項第二十四條及第四十九條諸表ノ雛形左表ノ通改正ス

(二ツ折美濃紙)

號甲

明治何年十二月三十一日調 徵發物件表

何府(縣)何郡(市)役所又ハ何  
 島廳沖繩縣何郡(區)役所又ハ  
 何島廳北海道廳何支廳又ハ何  
 區役所

計	何			地名	現住人口	現住人口	醫藥師	看護員	獸醫	蹄工	大船工	鍛冶職	車製職	舟夫	病院	學校	神社	寺院	水車場	西洋形帆船	西日本形船	小船	
	市	何區	何區																				
⑦	何市(區)																						

徵發事務條例



タル傳染病院及隔離病舎ハ朱書ヲ以テ同欄内ニ分記スヘシ  
 十 學校ハ官立公立私立ヲ問ハス學校専用ノ爲特ニ設ケタル建物ノミヲ算シ民家社  
 寺ノ全部若ハ幾分ヲ使用スルモノハ除ク

十一 神社ハ其ノ境内地坪五百坪以上ヲ有スルモノハ總テ之ヲ算ス

十二 寺院(境内佛堂モ  
寺院ニ準ス)ハ建坪五十坪以上ヲ有スルモノ若ハ建坪ノ大小ニ拘ラス其  
 ノ境内地坪五百坪以上ヲ有スルモノハ總テ之ヲ算ス

十三 水車場ハ一日一石以上ノ米ヲ搗キ得ヘキモノノミヲ算ス但シ一年間絶エス使  
 用スルモノニ限ル

十四 船舶ノ内西洋形帆船ハ五噸以上日本形船ハ五十石以上ノモノヲ算ス

小船トハ西洋形帆船五噸未滿日本形五十石未滿及其ノ他ノ航行用小船航行用  
 ニ供セサル小船ヲ云フ

小船ノ内漁業専用ノモノハ朱書ヲ以テ同欄内ニ分記スヘシ  
 製表上ノ注意

一 本表ハ隔年(例之明治三十三年、同三十五年、同三十七年ニ調製スルノ類)各郡

(市)(區)北海道廳及沖繩 縣ノ區ヲ指ス 役所、各島廳、北海道廳各支廳ニ於テ調製シ所管府(縣)

廳又ハ道廳ヲ經テ翌年三月三十一日限り陸軍省ニ進達スヘシ

二 表中(イ)ハ東京市、京都市、大阪市ノ例(ロ)ハ其ノ他ノ市及沖繩縣北海道廳ノ區  
 ノ例(ハ)ハ郡及島廳ノ例(ニ)ハ北海道廳支廳ノ例ヲ示ス

組合町村或ハ町村制未行地方ノ聯合町村ニ在テハ其ノ町村ヲ各別ニ列記スヘシ

三 ①ハ郡役所②ハ島廳③ハ北海道廳支廳④ハ郵便電信局、同支局⑤ハ郵便局、同支  
 局⑥ハ電信局、同支局、電信取扱所⑦ハ電話交換局、同支局、同分局⑧ハ中央金庫、  
 本金庫、支金庫⑨ハ警察署、同分署ノ所在地ヲ示ス符號トス但シ符號ハ總テ朱書  
 スヘシ

四 各欄ノ數前回ノ分ニ對シ著シク増減アルモノハ表末ニ備考欄ヲ設ケテ其ノ理由  
 ヲ詳記スルヲ要ス



號丙

何市場三箇年間平均物價表

何府(縣)廳又ハ道廳

(二ツ折美濃紙)

種	類	立物				
		明治何年	同何年	同何年	自何年 至何年	三箇年
玄	米	石肥後				
白	米	石地回				
大	麥	石播州				
小	麥	石備中				
裸	麥	石攝津				
鹽	一貫目	石赤穂				
味	油	一貫目	仙臺			
醬	油	一貫目	仙臺			
漬物	澤庵	樽入	樽入			
梅	干	樽入	樽入			
薪	十貫目					
炭	十貫目					
石	噸					
菘	十貫目					
藁	十貫目					

調査上ノ注意

- 一 立テ物ハ當該市場ニ於テ取引スル多量ノ物品ニ依ル但シ本表記載ノ物品ハ其ノ例ヲ示スモノトス
  - 二 商業會議所所在地ノ市場ニテハ毎年商業會議所ヨリ農商務省ヘ報告スル物價統計ニ依リ其ノ他ノ市場ニ在テハ毎月少クトモ三回(例之毎五ノ日)ノ價格ヲ平均シテ其ノ月ノ平均トナシ各月ノ平均ヲ平均シテ其ノ年ノ平均ヲ算出スルモノトス
- 製表上ノ注意
- 一 本表ハ一市場ノ例ヲ示ス各府(縣)廳又ハ道廳ハ管下三箇所以上ノ市場ニ於ケル物價表ヲ各市場各別ニ調製シ毎年三月三十一日限り陸軍省ニ進達スヘシ
  - 二 表名中著名ナラサル市場ニ在テハ郡(島)名ヲ冠シテ其ノ所在地ヲ明カニスヘシ

●海軍省令第二十三號 (明治三十三年十一月十三日)  
 徵發事務條例第四十九條平均物價表ノ雛形左ノ通定ム

(二ツ折美濃紙)

種	類	立物名	何市場三箇年間平均物價表			何府(縣)廳又ハ道廳		
			明治何年	同何年	同何年	自何年	至何年	三箇年
玄	米	石肥後						
白	米	石地回						
大	麥	石播州						
小	麥	石備中						
裸	麥	石攝津						
鹽		石赤穂						
味	噌	石仙臺						
醬	油	石						
漬物	(澤庵)	(樽入)						
梅	干	(樽入)						
薪		十貫目						
炭		十貫目						

徵發事務條例

石	炭	一噸	〃						
藥	糖	十貫目	〃						
	株	十貫目	〃						
		十貫目	〃						

調査上ノ注意

- 一 立テ物ハ當該市場ニ於テ取引スル多量ノ物品ニ依ル但シ本表記載ノ物品ハ其ノ例ヲ示スモノトス
  - 二 商業會議所所在地ノ市場ニテハ毎年商業會議所ヨリ農商務省ヘ報告スル物價統計ニ依リ其ノ他ノ市場ニ在テハ毎月少クトモ三回(例之ハ每五ノ日)ノ價格ヲ平均シテ其ノ月ノ平均トナシ各月ノ平均ヲ平均シテ其ノ年ノ平均ヲ算出スルモノトス
- 製表上ノ注意
- 一 本表ハ一市場ノ例ヲ示ス各府(縣)廳又ハ道廳ハ管下三箇所以上ノ市場ニ於ケル物價表ヲ各市場各別ニ調製シ毎年三月三十一日限リ海軍省ニ進達スヘシ
  - 二 表名中著名ナラサル市場ニ在リテハ郡(島)名ヲ冠シテ其ノ所在地ヲ明カニスヘシ

●海軍省令第四號

徵發事務條例第二十五條諸表ノ雛形左ノ通定ム (明治三十二年一月十六日)

工場表ノ一

西洋形船舶及船用機關製造修理工場表

道廳府縣 明治 何年  
十二月三十一日調

名稱	所在地名	會社ノ種類	資本	創立年月	職 員	持 社	技師長	技 師	名	實業ニ從事シタル年月
					位 記 學位	長 主	造 造 造 造 造	何 造 造 造 造 造	名	究 專 門 技 術 ヲ 研 究 シ タ ル 場 所
					姓					









徵發事務條例

子三八

工場表ノ三

名	所在地	主	會社ノ種類	創立年月	工場建坪數	種類	旋盤數	旋盤ニ掛ケ最大長 得ヘキ物品最大徑	原動機 種類	馬力	「ドリリング」其他重要機械器具ノ要領	職工ノ數	右ノ外製造力及工業程度ヲ示スヘキ要領
鐵工場表 (人力ヲ以テ原動力トナス工場ハ本表ニ掲クルヲ要セス)												(場内最大事業ニ使用スル一日ノ總數ヲ掲クヘシ)	

道廳府縣明 治 何 年  
十二月三十一日調

三十三年  
十月海軍  
省令第二  
十二號參  
看

汽船表(登簿噸數百噸未滿)

道廳府縣明 治 何 年  
十二月三十一日調

免狀番號	船名	尺 度			登簿噸數	用 方	製造年月	定 繫 港	持 主
		長	幅	深					
	何 丸				旅客船				
	何 丸				貨物船				
	何 丸				曳 船				

汽船表(登簿噸數百噸以下ノモノ)  
ハ本表ニ掲クルヲ要セス)

道廳府縣明 治 何 年  
十二月三十一日調

定航地方事務取扱所

徵發事務條例

子三九



●法律第六十六號 (明治二十九年四月六日)

第一條 戰時若ハ事變ノ際軍馬ノ補給ヲ確實ナラシムル爲馬匹ノ調査及検査ヲ行フ  
第二條 馬匹ノ調査ハ島司、郡市町村長之ヲ行ヒ其ノ検査ハ陸軍官憲之ヲ行フ但シ  
検査ハ一年一回ヲ超ユルコトナシ

第三條 馬匹ノ所有者ハ馬匹ノ調査ニ必要ナル事項ヲ届出ヘシ

第四條 馬匹ノ所有者ハ指定ノ検査場ニ於テ馬匹ノ検査ヲ受クヘシ

馬匹ノ検査ヲ受ケタル馬匹所有者ニハ手當及旅費ヲ給ス

第五條 徴發令ニ依リ徴發ノ免除ヲ受クヘキ馬匹ニハ此法律ヲ適用セス

第六條 馬匹ノ調査及検査ヲ行フヘキ區域、時期、馬匹ノ種類、第三條ノ届出事項及

第四條ノ手當、旅費ノ金額ニ關スル規程並此法律施行ノ爲必要ナル規程ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附 則

第七條 東京市、京都市、大阪市ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル市長ノ職務ハ區長之ヲ行フ

市制、町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル市町村長ノ職務ハ

區長、戸長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第八條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

●陸軍省令第四號 (明治三十年二月二十四日)

馬匹調査及検査施行規則

三十二年  
十月省令  
第三十號  
參看

第一條 馬匹ノ所有者ハ毎年十一月一日北海道ニ在テハ九月一日 調ヲ以テ馬匹ノ現在届書(第一號書式若ハ第二號書式)ヲ同日ヨリ十日北海道ニ在テハ二十日 以內到達ノ期ヲ指ニ現住地ノ市町村長ニ差出スヘシ

第二條 馬匹ノ所有者ハ其ノ馬匹ニ出讓渡シ、死亡シ撲殺シ、屠殺シ、失踪シ若ハ飼資格ヲ得タル入讓受ケ、出生シ、踪跡ヲ發見シ若ハ飼養所ヲ現住ノ市町村外ヘ轉シ又ハ徵發免除ノトキヲ謂フ 村内ニ轉シ又ハ徵發免除ノ資格ヲ失ヒタルトキヲ謂フアルトキハ其ノ都度十日北海道ニ在テハ二十日 以內ニ該馬匹ノ出届書(第三號書式)若ハ入届書(第四號書式)ヲ現住地ノ市町村長ニ差出スヘシ但馬匹ヲ引連レ住所ヲ他ノ市町村ニ轉シタルトキハ舊住地ノ市町村長ニハ該馬匹ノ出届ヲナシ新住地ノ市町村長ニハ該馬匹ノ入届ヲナスモノトス

第三條 市町村長馬匹ノ現在届書ヲ受領シタルトキハ其ノ普通ノ所有者ニ屬スル分

ト營業所有者馬匹ノ賣買ヲ營業ニ屬スル分トニ分類シ且左ノ部別ニ依リ綴リ置クヘシ

牡五歳以上乗馬向ノ部

同 鞍馬向ノ部

同 駄馬向ノ部

牡四歳以下乗馬向ノ部

同 鞍馬向ノ部

同 駄馬向ノ部

同 用役未定ノ部

牝五歳以上乗馬向ノ部

同 鞍馬向ノ部

同 駄馬向ノ部

牝四歳以下乗馬向ノ部

同 鞍馬向ノ部

同 駄馬向ノ部

同 用役未定ノ部

市町村長馬匹ノ出入届書ヲ受領シタルトキハ其ノ出ニ屬スル分ト入ニ屬スル分トニ區分ヲ立テ且前項ノ分類及部別ニ依リ綴リ置クヘシ

第四條 町村長ハ馬匹ノ現在届書ニ依リ馬匹調査表(第五號書式)ヲ調製シ毎年十一月二十五日 北海道ニ在テハ迄到達ノ期ヲ指ニ郡長ニ差出スヘシ

郡長ハ町村長ヨリ差出シタル馬匹調査表ニ依リ其ノ郡内一般ニ渉ル馬匹調査表(第五號書式)ニ通テ調製シ毎年十二月十日 北海道ニ在テ迄ニ徵馬管區馬匹徵發事務細則附表ヲ謂フ以內ノ師團長ニ差出スヘシ

第五條 市長ハ馬匹ノ現在届書ニ依リ馬匹調査表(第五號書式)ニ通テ調製シ毎年十二月十日迄ニ徵馬管區内ノ師團長ニ届出ヘシ

第六條 師團長第四條第二項及第五條ノ馬匹調査表ヲ受領シタルトキハ其ノ一通ヲ

軍馬補充部本部長ニ送付スヘシ

第七條 町村長ハ馬匹ノ出入届書ニ依リ毎年三月一日及七月一日 北海道ニ在テハ一月一日及五月一日 調ヲ以テ馬匹出入表(第六號書式)ヲ調製シ當月十五日 北海道ニ在テハ當月盡日迄ニ郡長ニ差出スヘシ

郡長ハ町村長ヨリ差出シタル馬匹出入表ニ依リ其ノ郡内一般ニ涉ル馬匹出入表(第六號書式)ヲ調製シ翌月一日 北海道ニ在テハ翌月二十日迄ニ徵馬管区内ノ師團長ニ差出スヘシ

第八條 市長ハ馬匹ノ出入届書ニ依リ毎年三月一日及七月一日 北海道ニ在テハ一月一日及五月一日 調ヲ以テ馬匹出入表(第六號書式)ヲ調製シ翌月一日 北海道ニ在テハ翌月二十日迄ニ徵馬管区内ノ師團長ニ差出スヘシ

第九條 市町村長馬匹出入表ノ調製ヲ了ルトキハ其ノ都度第三條第一項ノ届書綴及第二項ノ入届書綴中ヨリ其ノ出ニ屬シタル馬匹ノ届書ヲ訂正若ハ除去シ尙ホ入届書ニ殘餘アルトキハ第一項ノ届書綴ニ編入スヘシ

第十條 馬匹検査ハ師團長左ノ委員ヲ設ケテ其ノ徵馬管区内ニ之ヲ行フ

委員長 騎、砲、輜重兵科少佐大尉

一人

委員 騎、砲、輜重兵科士官獸醫部士官

一人乃至二人

第十一條 馬匹検査場ハ検査ヲ受クヘキ馬匹ノ所在地ヨリ該検査場へ一日間ニ往復シ得ル區域毎ニ一箇所トシ郡市長ノ下調ニ依リ師團長之レヲ定ム但一所ニ多數ノ馬匹ヲ置ク者アルトキハ別ニ其ノ馬匹ノ所在地ヲ以テ検査場ニ充ツルコトヲ得

第十二條 師團長馬匹ノ検査ヲ行ハントスルトキハ豫メ其ノ時期馬匹ノ區別一日間ノ検査馬數其ノ他必要ノ事項ヲ郡市長ニ達スヘシ

第十三條 郡市長第十二條ノ達ヲ受ケタルトキハ馬匹調査表若クハ最近馬匹出入表ニ依リ馬匹下調表(第七號書式)ヲ調製シ師團長ニ差出スヘシ

第十四條 師團長ハ馬匹検査ノ計畫既ニ成ルトキハ馬匹検査場ノ位置検査ヲ行フヘキ馬匹ノ區別馬匹ヲ検査ニ出場セシムヘキ市町村ノ日割日々検査ヲ行フヘキ馬匹ノ概數其ノ他必要ノ事項ヲ郡市長ニ達スヘシ

第十五條 郡長第十四條ノ達ヲ受ケタルトキハ馬匹検査場ノ位置検査ヲ受クヘキ馬匹ノ區別馬匹ヲ検査ニ出場セシムヘキ町村ノ日割日々検査ヲ受クヘキ馬匹ノ概數

三十三年十一月十四日  
令第四十號  
參看



其ノ他必要ノ事項ヲ町村長ニ達スヘシ

町村長前項ノ達ヲ受ケタルトキハ検査ヲ受クヘキ馬匹ノ所有者若ハ總代人又ハ管理人ヲ調ヘ其ノ馬匹ヲ検査ニ出場セシムヘキ日割ヲ定メ馬匹検査場ノ位置其ノ他必要ノ事項ト共ニ該所有者若ハ總代人又ハ管理人ニ通知スヘシ

町村長前項ノ通知ヲ爲シタル後新ニ検査ヲ受クヘキ馬匹ノ所有者若ハ總代人又ハ管理人トナリタル者アルトキハ其ノ都度同様ノ手續ヲ爲スヘシ

第十六條 市長第十四條ノ達ヲ受ケタルトキハ第十五條第二項第三項ト同様ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 市長ハ第十四條町村長ハ第十五條第一項ノ達ヲ受ケタル當日調ヲ以テ出場馬匹名簿(第八號書式)ヲ調製シ爾後馬匹検査當日迄ノ間ニ於テ検査ヲ受クヘキ馬匹ニ出入アルトキハ其ノ都度該名簿ヲ訂正シ馬匹検査ノ際馬匹検査委員ニ差出スヘシ

第十八條 馬匹ノ所有者第十五條第二項第三項若ハ第十六條ノ通知ヲ受ケタルトキ

ハ該通知ニ應シ其ノ馬匹ヲ検査ニ出場セシムヘシ

第十九條 馬匹ノ所有者ハ馬匹ノ疾病傷痍分娩其ノ他正當ノ理由ニ依テ検査ニ出場セシムルコト能ハサルトキハ獸醫ノ診斷書若ハ戸主二名ノ證明書ヲ添ヘテ其ノ旨ヲ現住地ノ市町村長ニ届出ヘシ

第二十條 馬匹検査委員ハ出場馬匹名簿ニ依リ検査ヲ行フヘシ

第二十一條 都市町村吏員北海道ニ在テハ  
郡吏員ヲ除クハ馬匹ノ検査ニ立會フヘシ

第二十二條 馬匹ノ調査及検査ニ關スル法律第四條ノ手當及旅費ハ左ノ支給方ニ依ル

- 一 手當ハ馬匹一頭ニ付拾錢ヲ給ス
- 一 旅費ハ馬匹一頭ニ付一里毎ニ貳錢五厘ヲ給ス但往復里程ハ通算シ一里未満ノ端數ハ給セス

第二十三條 馬匹ノ所有者其ノ馬匹ヲ現住市町村外ニ置クトキハ該馬匹所在ノ市町村毎ニ該市町村内ノ現住者中ヨリ該馬匹ノ管理人ヲ設クヘシ但馬匹所在地ニシテ

二箇以上ノ市町村ニ跨ルトキハ該馬匹ノ管理人ハ該市町村内ノ現住者一人トシ又馬匹所在地ニシテ該馬匹ノ所有者現住ノ市町村ト他ノ市町村トニ跨ルトキ若ハ本規則未行地ナルトキハ管理人ヲ設クルヲ要セス

馬匹ノ所有者ハ其ノ馬匹ノ管理人ヲ設ケ若ハ變更シ又ハ廢止シタルトキハ其ノ都度十日 北海道ニ在テハ二十日 以內ニ該管理人ノ住所氏名ヲ記シ其ノ旨ヲ該管理人現住地ノ市町村長ニ届出ヘシ

馬匹ノ管理人ハ其ノ管理スル馬匹ニ就テハ該馬匹ノ所有者ニ代リ第一條第二條第十八條第十九條ノ事項ヲ辨スヘシ

第二十四條 馬匹ノ共有者ハ該共有者中ヨリ一人ノ總代人ヲ設ケ總代人ノ住所氏名ヲ記シ一同連署ノ上十日 北海道ニ在テハ二十日 以內ニ該總代人現住地ノ市町村長ニ届出ヘシ其ノ總代人ヲ變更シタルトキ亦同シ

前項ノ總代人ハ前項ノ各共有者ニ代リ第一條第二條第十八條第十九條第二十三條第一項第二項ノ事項ヲ辨スヘシ

第二十五條 馬匹ノ所有者第一條第二條第二十三條第二項第二十四條第一項ノ届出ヲ怠リタルトキ第二十四條第一項ノ總代人ヲ設ケサルトキ第十八條第二十三條第一項ニ違犯シタルトキ第十九條ノ届出ヲ怠リ若ハ詐僞ノ届出ヲ爲シタルトキハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

前項ノ罰則ハ馬匹管理人又ハ總代人ニ於テ處辨スヘキ事項ニ在テハ其ノ管理人又ハ總代人ニ適用スルモノトス

附 則

第二十六條 本規則中市トアルハ東京市京都市大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區ニ該當ス

第二十七條 本規則中市長ノ職務ハ東京市、京都市、大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區長之ヲ行ヒ郡長ノ職務ハ北海道ノ郡ニ在テハ支廳長、對馬ニ在テハ島司之ヲ行ヒ町村長ノ職務ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ戶長及之レニ準スヘキモノ之ヲ行フ

第二十八條 臺灣沖繩縣北海道所屬ノ島嶼其ノ他町村制ヲ施行セサル島嶼(對馬ヲ除ク)ニハ當分本規則ヲ施行セス但該地方ノ現住者中其ノ所有ノ馬匹ヲ本規則施行地ニ置ク者其ノ馬匹ニ關シテハ此ノ限ニアラス

第二十九條 削除

第三十條 明治三十年ニ限リ北海道外ノ郡市町村長ハ第四條及第五條ノ手續ヲ二回施行スヘシ但第一回ノ馬匹調査表ハ市町村長ニ在テハ第二十九條ノ現在届書ニ依テ調製シ其ノ差出期限ハ町村長ニ在テハ四月二十五日迄郡市長ニ在テハ五月二十日迄トス

第三十一條 明治三十年ニ限リ北海道外ノ郡市町村長ハ第七條第八條及第九條ノ手續ハ九月ヨリ行フヘシ

第三十二條 明治三十年ニ限リ北海道現住ノ馬匹所有者中其ノ馬匹ヲ同道内ニ置ク者ハ同年八月盡日迄ハ第二條第二十三條第二十四條及第二十九條ノ手續ヲ行フニ及ハス

第三十三條 削除

第一號書式 (用紙半紙)

馬匹現在届

- 一性
  - 一年齢
  - 一用役
  - 一體尺
  - 一毛色
- 右現在候也

現住所

年月日

馬匹所有者(總代人)(馬匹管理人)氏 名 ①

市町村長宛

注意



- 定」毎ニ各一通宛調製スルモノトス
- 三 馬匹ノ所有者ニシテ馬匹ノ賣買ヲ營業トスル者ノ届書ニハ氏名ノ上ヲ「營業所有者」若ハ「營業所有者ノ總代人」又ハ「營業所有者ノ馬匹管理人」ト記載スヘシ

第三號書式 (用紙半紙)

馬匹出届

- 一 性
- 一 年齢
- 一 用役
- 一 體尺
- 一 毛色

右何市町村何誰へ讓渡(死亡)(撲殺)(屠殺)(失踪)(飼養所ヲ何市町村へ轉シ)(徵發免除ノ資格ヲ得)候也

現住所

年月日

馬匹所有者(總代人)(馬匹管理人) 氏

名 ㊦

市町村長宛

注意

- 一 此ノ届書ハ馬匹一頭毎ニ調製スルモノトス
- 二 性ノ處ニハ「牝」又ハ「牡」ト記載スヘシ
- 三 年齢、用役及體尺ハ前回差出シタル現在届若ハ入届ニ記載シタルモノヲ記載スヘシ
- 四 馬匹ノ所有者ニシテ馬匹ノ賣買ヲ營業トスルモノ、届書ニハ氏名ノ上ヲ「營業所有者」若ハ「營業所有者總代人」又ハ「營業所有者ノ馬匹管理人」ト記載スヘシ

第四號書式 (用紙半紙)

馬匹入届

- 一 性
- 一 年齢
- 一 用役
- 一 體尺
- 一 毛色

右何市町村何誰ヨリ譲受(出生)(踪跡發見)(飼養所ヲ現住市町村へ轉シ)(徵發免除ノ資格ヲ失ヒ)候也

現住所

年月日 馬匹所有者(總代人)(馬匹管理人) 氏 名 印

市町村長宛

注意

- 一 此ノ届書ハ馬匹一頭毎ニ調製スルモノトス
- 二 性ノ處ニハ「牝」又ハ「牡」ト記載スヘシ

三 用役ノ處ニハ乘馬ニ適スヘキカ、鞍馬ニ適スヘキカ又ハ駄馬ニ適スヘキカ其ノ見込ヲ定メテ「乘馬向」「鞍馬向」又ハ「駄馬向」ト記載スヘシ但四歳以下ノ馬匹中其ノ見込ヲ定メ難キ幼齡ノモノニ限リ「用役未定」ト記載スヘシ

四 體尺ハ肩ノ最モ高キ處ヨリ地面へ垂直ニ測リタルモノヲ記載スヘシ

五 馬匹ノ所有者ニシテ馬匹ノ賣買ヲ營業トスルモノ、届書ニハ氏名ノ上ヲ「營業所有者」若ハ「營業所有者總代人」又ハ「營業所有者ノ馬匹管理人」ト記載スヘシ

第五號書式 (用紙美濃紙)

年	月	調	表	五歳以上ノ部(四歳以下ノ部)	北海道府縣(郡)	郡市町村長	氏	名
體區			分	計	馬			
尺	分	乘馬向	鞍馬向	駄馬向	乘馬向	鞍馬向	駄馬向	計
三尺八寸以下								
三尺九寸								
四尺								







備考	町			丁			村		
	日	何	第	日	何	第	日	何	第

注意

- 一 此ノ表ハ各郡市毎ニ調製スルモノトス
  - 二 營業所有者ノ馬匹ノ數ハ相當區畫内へ朱ニテ左側ニ記入スヘシ
- 第八號書式 (用紙半紙)

月 日 年 出場馬匹名簿

北海道府縣 郡市町村長 氏 名

牡(牝)馬五歳以上(四歳以下)ノ部

普通所有者ノ馬匹

營業所有者ノ馬匹

何頭

計

何頭

何頭

年齢	體尺	毛色	用役	馬匹所有者	氏 名
				總代理人	
				管理人	

注意

- 一 此ノ名簿ハ各市町村ニ區別シ牡馬五歳以上ノ部、牝馬五歳以上ノ部、牡馬四歳以下ノ部、牝馬四歳以下ノ部ノ各部毎ニ一通宛調製スルモノトス
- 二 營業所有者ノ分ハ朱ニテ記入スヘシ

●陸軍省令第三十二號 (明治三十二年十月二十六日)  
馬匹徵發事務細則

第一章 總則

第一條 本則ハ動員ノ爲メ師團ニ於テ行フ馬匹徵發ニ關スル準備及實施ノ事務ヲ規定スルモノトス

第二條 馬匹ノ徵發ハ附表ニ示ス徵馬管區ニ從テ之ヲ行フ

第三條 徵馬管區内ノ地方官衙、公署ニ於ケル馬匹徵發ニ關スル準備及實施ノ事務ハ本則ニ依ルノ外尙ホ當該管區ヲ管轄スル師團長ノ規定スル所ニ從フヘシ

第四條 師團長ハ徵發馬匹差出場所ニ於テ馬匹ノ檢査ヲ爲シ且該所ニ於ケル徵發及輸送ノ事務ヲ掌ラシムル爲メ馬匹徵發委員ヲ設ケ又徵發馬匹輸送途中ニ於ケル宿泊及給養ノ事務ヲ掌ラシムル爲メ馬匹給養委員ヲ設クルモノトス

第五條 徵發馬匹ヲ其差出場所ヨリ到著地ニ輸送スル爲メニハ馬匹ノ操業者ヲ徵用スルモノトス

第六條 馬匹徵發ノ實施ニ關シ官衙、公署間送ニ發送スル文書ノ封筒ハ動員用封筒  
 (第一様式)ヲ用キ之ヲ受領シタル者ハ其封筒ニ受領時刻ヲ記入シ受領證區畫ニ捺  
 印ノ上之ヲ返附スヘシ其本人ニ代テ受領シタル者ハ受領證區畫ニ氏名ヲ記シ捺印  
 スヘシ

第七條 本則中到着地トアルハ徵發馬匹ヲ受領スル部隊ノ所在地ヲ謂フ

第八條 本則中地方長官トアルハ東京府ニ在テハ警視總監ヲ、警察署長トアルハ警  
 察分署長ヲ、村長トアルハ戸長及之ニ準スヘキ者ヲ包含シ又市長トアルハ東京市、  
 京都市、大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區長ニ、郡長トアルハ北海道ノ郡ニ在テハ支  
 廳長ニ、對馬ニ在テハ島司ニ該當ス

市トアルハ東京市、京都市、大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區ニ該當ス

第二章 徵發準備

第九條 師團長ハ定期若クハ臨時ニ地方官衙、公署ニ於ケル馬匹徵發準備ノ整否ヲ  
 閱視シ又ハ聯隊區司令官及其他部下將校ヲシテ之ヲ閱視セシム

三十四年  
 十二月省  
 令第二十  
 一號參看

第十條 地方長官ハ師團長ヨリ徵發馬匹差出場所及同宿泊所表ヲ受クレハ直ニ之ヲ

差出場所若クハ宿泊所ヲ設置スヘキ地ヲ管轄スル郡市長 東京市、京都市、大阪市 及  
 警察署長ニ達スヘシ

第十一條 地方長官ハ徵發馬匹差出場所及同宿泊所ノ設備ニ關シ師團長ヨリ要求ア  
 ルトキハ其準備ヲナスヘシ

第十二條 憲兵隊長ハ師團長ヨリ徵發馬匹差出場所及同宿泊所表ヲ受クレハ直ニ警  
 察署長ト協議ノ上該所ニ於ケル取締ニ關シ必要ノ準備ヲナスヘシ

第十三條 警察署長ハ地方長官ヨリ第十條ノ達ヲ受クレハ憲兵隊長ト協議ノ上其取  
 締ニ關シ必要ノ準備ヲナスヘシ

第十四條 郡長ハ師團長ヨリ徵發馬匹配當及差出日割表ヲ受クレハ直ニ馬匹調査及  
 檢査施行規則第四條ニ規定スル馬匹調査表ニ依リ徵發スヘキ馬匹ヲ町村ニ配當シ  
 爾後要スレハ同規則第七條ニ規定シ  
 タル馬匹出入表ニ依リ之ヲ變更ス 何時ニテモ迅速確實ニ師團長ノ指定スル期日  
 ニ於テ其指定ノ馬數ヲ差出シ得ヘキ準備ヲナスヘシ

第十五條 市長ハ師團長ヨリ徵發馬匹配當及差出日割表ヲ受クレハ直ニ馬匹調査及  
檢査施行規則第三條ニ規定スル馬匹現在届書又ハ馬匹出入届書ニ依リ差出スヘキ  
馬匹ヲ豫定シ何時ニテモ迅速確實ニ師團長ノ指定スル期日ニ於テ其指定ノ馬數ヲ  
差出シ得ヘキ準備ヲナスヘシ

第十六條 郡市長ハ師團長ヨリ馬匹徵發書ヲ受クレハ確實ニ之ヲ保管スヘシ但此徵  
發書ハ師團動員發令ノ時ヨリ初メテ其効力ヲ有スルモノトス

第十七條 郡市長ハ馬匹ノ異動ニ依リ師團長ヨリ指定ノ馬數ヲ差出シ能ハサルコト  
ヲ豫知シタルトキハ速ニ其旨ヲ師團長ニ申告シ其指示ヲ請クヘシ

第十八條 郡市長ハ師團長ノ要求ニ依リ徵發馬匹差出場所及同宿泊所ノ設備ニ要ス  
ル費用ノ豫算其他馬匹徵發ニ間スル準備ノ爲メ所要ノ調査ヲナスヘシ

第十九條 馬匹徵發ニ關シ郡役所ニ於テハ町村徵發馬匹配當書類町村徵發馬匹差出  
場所到着日割書類及動員用封筒ヲ、市役所及町村役場ニ於テハ動員用封筒ヲ準備  
シ置クヘシ

第三章 徵發實施

第二十條 馬匹ノ徵發ハ當該師團動員發令ノ時ヨリ實施スヘキモノトス

馬匹ノミ徵發スル郡市若クハ徵發馬匹差出場所又ハ同宿泊所ノミ設置スヘキ郡市  
ニ在テハ徵馬管區ヲ管轄スル師團長ヨリ動員令ヲ當該地方長官及郡市長ニ通達ス  
ヘシ

第二十一條 地方長官ハ師團長ヨリ動員令ノ通達ヲ受クレハ直ニ之ヲ警察署長ニ達  
スヘシ

第二十二條 憲兵隊長ハ師團ヨリ動員令ノ通達ヲ受クレハ直ニ之ヲ部下ニ達シ豫定  
ノ計畫ニ從ヒ憲兵ヲ徵發馬匹差出場所及同宿泊所ニ派遣シ馬匹徵發委員及馬匹給  
養委員並ニ當該市、町、村長ト協議ノ上其取締ニ關シ相當ノ處置ヲナサシムヘシ

第二十三條 警察署長ハ地方長官ヨリ動員令ノ通達ヲ受クレハ直ニ之ヲ部下ニ達シ  
豫定ノ計畫ニ從ヒ警察官吏ヲ徵發馬匹差出場所及同宿泊所ニ派遣シ馬匹徵發委員  
及馬匹給養委員並ニ當該市、町、村長ト協議ノ上其取締ニ關シ相當ノ處置ヲナサシ

ムヘシ

第二十四條 郡市長ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官第二十條第二項ニ當ル郡市ニ在テハ師團長ヨリ動員令ノ通達ヲ受クレハ其達書ニ指示スル動員ノ區分ト豫テ保管スル馬匹徵發書ニ記スル所ノ馬匹ノ員數此員數若シ徵發馬匹配當及差出日割表ニ記セルトニ基キ郡員數ト差違アルトキハ徵發書ニ示ス所ニ依ル長ニ在テハ直ニ馬匹ノ配當及徵發馬匹差出場所到著日割ヲ町村長ニ達シ市、町、村長ニ在テハ徵發スヘキ馬匹ノ所有者ニ達スヘシ

第二十五條 郡市長ハ前條徵發馬匹差出場所到著日割ヲ定ムルニハ第十四條ニ示ス徵發馬匹差出場所到著日割表ノ日次ヲ動員令ニ指定スル動員第一日ヨリ起リ曆日ニ換算シテ定ムヘシ

第二十六條 郡市長ハ第二十四條及第二十五條ノ手續ヲ終ルトキハ直ニ徵發馬匹出場名簿(第二樣式)ニ通テ調製シ郡長ニ在テハ町村長ノ調製シタルモノニ基キ調製シ又町村長ノ調製シタルモノヲ其儘應用スヲ携ヘテ徵發馬匹ノ到著期日前ニ其差出場所ニ到著シ其一通ヲ馬匹徵發委員長ニ差出シ當該郡市徵發馬匹ノ檢査ニ立會フヘシ

第二十七條 郡市長ハ馬匹徵發委員長ヨリ檢査ニ合格シタル馬匹ノ爲メ徵發馬匹受領證票(第二樣式)ヲ受クレハ其乙號ハ自ラ之ヲ保管シ丙號ハ馬匹所有者ニ交付スヘシ

第二十八條 徵發馬匹差出場所若クハ同宿泊所ヲ設置スヘキ地ヲ管轄スル郡市長ハ師團長若クハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ動員令ノ通達ヲ受クレハ豫定ノ計畫ニ從ヒ直ニ其設備ニ著手シ當該委員到著スルトキハ尙ホ之ト協議ノ上速ニ其完成ヲ期スヘシ

第二十九條 郡市長ハ徵發令ニ依リ前給ヲ要スル賃價ハ馬匹徵發委員長ニ徵發馬匹買上代、操業者徵用賃金及徵發區外ニ於ケル輸送賃金其他賠償ニ關スル金額ハ當該師團司令部ニ請求スヘシ但馬匹買上代ノ請求書ニハ乙號ノ徵發馬匹受領證票ヲ添フヘシ

立會郡市長若ハ其代理吏員ノ旅費其他郡市ニ於テ使用セシ郵便電信料使丁賃金等總テ徵發實施ニ關スル諸費ハ當該師團司令部ニ請求スヘシ

第三十條 徵發馬匹差出場所若クハ同宿泊所ノ設備ヲ擔任スル郡市長ハ其費用ヲ當該委員長ニ請求スヘシ

三十三年  
九月省令  
第二十七  
號參看

第三十一條 馬匹徵發ノ達ヲ受ケタル馬匹ノ所有者若クハ其代理者ハ馬匹ヲ牽連シテ出發シ二十四時間ニ陸路約十里ノ割合ヲ以テ旅行シ市、町、村長ノ指定スル徵發馬匹差出場所到着期日ノ午前六時ヨリ午後六時迄ノ間ニ差出場所ニ到着シ當該郡市長ニ届出ツヘシ

第三十二條 馬匹徵發馬ノ達ヲ受ケタル馬匹ノ所有者其馬匹疾病ノ爲メ徵發ニ應スル能ハサルトキハ達ヲ受ケタル時ヨリ二十四時間以内ニ憲兵若クハ警察官吏ノ證明書ヲ以テ市、町、村長ニ届出ツヘシ

應徵ノ途中馬匹疾病ノ爲メ徵發ニ應スル能ハサル場合ニ在テモ亦前項ノ手續ニ依ル

第三十三條 師團長ハ動員中豫定外ニ馬匹ヲ増加徵發セントスルトキハ別ニ徵發書ヲ作り尙ホ其到着期日ヲ指定シテ當該郡市長ニ通達スヘシ

前項ノ場合ニ在テ郡市長ハ第二十四條及第二十六條ノ規定ニ準シ速ニ馬匹ヲ差出スヘシ

第三十四條

動員完結後復員迄ノ間ニ於ケル馬匹ノ徵發ニ在テモ本細則ヲ準用スヘシ

附則

第三十五條 本則ハ明治三十二年十月三十日ヨリ施行ス

第三十六條 本則ハ明治三十年陸軍省令第四號馬匹調査及檢査施行規則ヲ實施セザル島嶼ニハ當分施行セス

第三十七條 明治三十年陸軍省令第二十七號馬匹徵發事務規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但明治三十二年度ニ於ケル既成ノ準備及徵發ノ實施ニ關シテハ馬匹徵發事務規則ニ依ル

第一様式 動員用封筒

動馬何第何號何通	
受領時刻	月 日 午前 時 分
受領證	

- 一 動馬ノ下「何」ハ各官衙、公署ニ於テ文書ノ發送番號ニ冠スル符號トス
- 二 封筒用紙ハ紅色トス

第二様式

何地徵發馬匹出場名簿

何郡市

何月何日出場牡(牝)何頭

内 譯

檢査成績	年齢	體尺	毛色	用役	馬匹所有者	徵發區ノ境界ヨリ	馬匹所有者氏名
					居住町村	差出場所ニ至ル里程	
					居住町村	差出場所ニ至ル里程	
					居住町村	差出場所ニ至ル里程	
					居住町村	差出場所ニ至ル里程	

何月何日出場牡(牝)何頭

- 一 「徵發馬匹出場名簿」ノ上「何地トハ差出場所ノ地名ヲ指ス」
- 二 檢査ノ成績トハ徵發委員ノ檢定セシ結果即チ合否ヲ記入スルモノトス
- 三 「徵發區ノ境界ヨリ差出場所ニ至ル里程」ハ馬匹所有者ノ居住町村ヨリ差出場所ニ至ル捷路ニ就キ調査シ一町未滿ノ間數ハ除算スヘキモノトス

四 用紙ハ罫紙

第三樣式

馬匹徵發事務細則

ウ一二

徵發馬匹受領證票				
馬匹所有者住所氏名				
操業者住所氏名				
性用役及等級				
徵發月日				
買上代				
明治年月日 何市(町)(村)ニ於テ				
何師團馬匹徵發委員長				
官 氏 名 印				
甲 號 何第何號				

師團司令部印

徵發馬匹受領證票

乙 號

何第何號

徵發馬匹受領證票				
馬匹所有者住所氏名				
操業者住所氏名				
性				
徵發月日				
買上代				
明治年月日 何市(町)(村)ニ於テ				
何師團馬匹徵發委員長				
官 氏 名 印				
丙 號				

師團司令部印

徵發馬匹受領證票

丙 號

馬匹所有者住所氏名

馬匹徵發事務細則

ウ一三



操業者住所氏名	
性	
徵發月日	
買上代	
明治年月日	何市(町)(村)ニ於テ
何師團馬匹徵發委員長	
官	氏名印

- 一 番號ハ徵發馬匹番號札ノ番號ヲ記入スルモノトス
- 二 性用役及等級ノ區畫ニハ徵發馬匹番號札ノ牡(牝)乘(鞍)(駄)及甲(乙)(丙)ヲ記入スルモノトス

附表

徵馬管區表

三十四年十一月十九日  
令第十九號  
參看

所管師團	府道	縣	郡	市	區
近衛	群馬	馬	多野、北甘樂、碓氷、吾妻、利根、勢多、群馬、佐波、新田、前橋市、高崎市		
第一	東京	北埼玉、大里、兒玉、比企、秩父			
第一	神奈川	三浦			
第一	埼玉	北葛飾、南埼玉、北足立、入間			
第二	新潟	岩船、東蒲原、西蒲原、北蒲原、中蒲原、佐土、新潟市			
第二	宮城	牡鹿、桃生、遠田、志田、玉造、加美、黒川、宮城、名取、柴田、刈田、伊具、亙理、仙臺市			
第二	福島	悉皆			
第二	愛知	悉皆			
第三	三重	桑名、員辨、三重、鈴鹿、河藝、安濃、一志、飯南、多氣、度會、志摩、北牟婁、南牟婁、津市、四日市市			
第三	靜岡	悉皆			
第三	長野	上伊那、下伊那、西筑摩、諏訪、南佐久、北佐久、小縣、埴科、上高井、下高井、上水内、下水内、長野市			
第三	神奈川	鎌倉、高座、中、足柄上、足柄下、愛甲、津久井、久良岐、榻樹、都筑、横濱市			
第三	山梨	悉皆			
第三	茨城	久慈、多賀、那珂			
第三	京都	愛宕、葛野、宇治、紀井、乙訓、久世、綴喜、相樂、京都市			
第三	大阪	北河内、南河内、中河内、東成、泉北、泉南、大阪市、堺市			

兵	津名、三原
奈良	悉皆
和歌山	悉皆
滋賀	悉皆
三重	阿山、名賀
茨城	猿島、北相馬、東茨城、西茨城、鹿島、行方、稻敷、新治、筑波、眞壁、結城、水戸市
岡山	阿哲、上房、川上、吉備、都窪、淺口、小田、後月
廣島	悉皆
山口	悉皆
大分	大分、北海部、速見、東國東、西國東
長崎	悉皆
熊本	玉名、飽託、土益城、下益城、宇土、天草、八代、球磨、葦北、熊本市
鹿兒島	悉皆
宮崎	悉皆
北海道	悉皆
青森	悉皆
秋田	悉皆
山形	悉皆
巖手	悉皆
宮城	本吉、登米、栗原
富山	悉皆
石川	悉皆

岐阜	悉皆
福井	大野、阪井、吉田、足羽、丹生、今立、南條、敦賀、福井市
長野	北安曇、南安曇、更級、東筑摩
新潟	三島、刈羽、中魚沼、東頸城、西頸城、中頸城、古志、南蒲原、北魚沼、南魚沼
栃木	安蘇、足利
群馬	山田、邑樂
京都	北桑田、南桑田、船井、加佐、天田、何鹿、與謝、竹野、中、熊野
大阪	三島、豐野、西成
兵庫	出石、城崎、美方、養父、朝來、氷上、多紀、川邊、有馬、武庫、明石、美嚢、加古、加東、加西、多可、印南、神崎、飾磨、穴栗、揖保、佐用、赤穂、神戸市、姫路市
鳥取	悉皆
岡山	英田、和氣、勝田、赤磐、邑久、苫田、久米、眞庭、御津、上道、兒島、岡山市
福岡	三方、遠敷、大飯
栃	河内、上都賀、芳賀、下都賀、鹽谷、那須、宇都宮市
徳島	悉皆
香川	悉皆
愛媛	悉皆
高知	悉皆
福岡	悉皆
佐賀	悉皆
熊本	菊池、阿蘇、鹿本
大分	宇佐、下毛、日田、玖珠、直入、天野、南海部

●陸軍省令第十四號 (明治三十四年十月四日)

陸軍兵籍規則

第一條 陸軍兵籍ハ陸軍軍人ノ身上ニ關スル必要ノ諸件ヲ登記スルモノトス

第二條 陸軍兵籍ハ分テ第一種及第二種トス

第一種兵籍ハ將校同相當官及准士官ニ第二種兵籍ハ士官候補生見習醫官見習藥劑官見習獸醫官見習軍吏下士兵卒雜卒職工ヲ包補充兵及諸生徒陸地測量部修技所生徒ヲ除ク以下同シ

第三條 陸軍兵籍ハ左ノ區別ニ從ヒ所屬軍隊官衙及學校ニ備置クモノトス

- 一 將官及同相當官ハ官衙學校
- 二 軍隊附將校同相當官將官及同相當官ヲ除ク及准士官ハ該隊本部
- 三 隊外將校同相當官將官及同相當官ヲ除ク及准士官ハ官衙又ハ學校
- 四 下士兵卒歸休兵ヲ除クハ聯隊聯隊ヲ爲サ、ルモノハ大隊、大隊ヲ爲サ、ルモノハ該隊以下同シ本部若ハ官衙學校
- 五 休職停職豫備役後備役ノ將官同相當官ハ師團司令部

六 休職停職豫備役後備役退役將校同相當官准士官下士兵卒歸休兵及補充兵ハ聯隊區司令部 警備隊司令部、警備隊區司令部以下同シ

七 士官候補生見習醫官見習藥劑官見習獸醫官見習軍吏其他諸生徒ハ聯隊本部又ハ學校

八 豫備役後備役將校同相當官及下士ニシテ軍隊官衙又ハ學校ニ奉職スル者ニ在テハ其軍隊又ハ學校

第四條 第一種兵籍謄本ハ之ヲ陸軍省ニ備置クモノトス

第五條 第一種兵籍ハ新ニ任官セラレタル者ノ所屬軍隊官衙學校ニ於テ調製シ其謄本ヲ順序ヲ經テ一週日內ニ發送シ陸軍省ヘ差出スヘシ

第六條 第二種兵籍ハ入隊又ハ入校ノトキ該隊又ハ學校ニ於テ調製スヘシ但第一補充兵ノ兵籍ハ其始メテ役ニ就キタルトキ第二補充兵ノ兵籍ハ始メテ召集ニ應シタルトキ聯隊區司令部ニ於テ調製スヘシ

第七條 轉職轉役等ニ因テ所屬ヲ變換シタルトキハ原所屬ヨリ其兵籍ヲ新所屬ヘ直

接ニ送付スヘシ

參謀官トシテ參謀本部以外ニ轉職スルモノナルトキハ新所屬ニ於テ兵籍謄本ヲ調製シ之ヲ參謀本部ニ送付スヘシ但參謀本部ヨリ轉職シタルモノハ參謀本部ニ於テ謄本ヲ調製スヘシ

前項ノ謄本ハ之ヲ參謀本部ニ備置クモノトス

中少尉 憲兵科ニシテ隊外ニ轉シ若ハ第三條第八項ニ該ルモノナルトキハ其謄本ヲ原所屬ニ備置クヘシ

第八條 將校同相當官以下ノ死亡者及現役中傷痍疾病ニ因リ常備役後備役免除兵役免除トナリ又ハ服役十二箇年四箇月ヲ過キ若ハ現役定限年齡ニ滿チ免官免役トナリタル者ノ兵籍ハ聯隊區司令部ニ於テ之ヲ保存スヘシ

前項ニ該當スル兵籍ハ當該軍隊官衙學校ヨリ速ニ之ヲ聯隊區司令部ニ送付スヘシ

附則

第九條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ實施ス

第十條 從來陸軍省ニ備置キノ兵籍正本及副本中陸軍省在職者ノ兵籍正本ハ之ヲ兵籍ト改メ其他ハ總テ本規則第四條ニ規定セル兵籍謄本トス

軍隊官衙陸軍省除ク學校ニ在ル兵籍正本又ハ副本ハ其儘之ヲ兵籍ト改ム但舊規則第四條第二項及第七條但書ノ場合ニ於ケル正本ハ之ヲ本規則第七條ニ規定セル謄本トス

料紙西ノ内紙

九寸

(「内ハ孰モ朱書)

兵科「何兵」	所管「何師團」「何部」	本籍 何府(縣) 何郡(區) 何市(町) 何村(番地)	氏名 「某長(次)男(兄)(弟)(戸主)」 「爵 何 某」
	族籍「華(士)族(平民)」		
賞典	何年何月日(何々ノ役何々ニ付)叙勳何等 金何百圓下賜		
	刑罰「何年何月日何々ノ科ニ依リ謹慎何日」		
子	妻	何年月日合武婚姻(婚姻) 何某長(次)女 某	何年月日何 死亡 地ニ於テ戰 (病)死
	嗣子長男(養子)某何年月日生 長女 某何年月日生 次男 某何年月日生		

公傷公病	何年月日何地ニ於テ何ニ依リ何傷(病)ヲ受ク	父 「某」祖父 「某」
陸軍出身	何年何月日何省出仕 何年何月日何ニ依リ免出仕	母 「某」祖母 「某」
陸軍出身後ノ履歷	兄弟(弟) 某何年月日生 兄弟(妹) 某何年月日生	

陸軍出身後ノ履歷

治明何年	何月日士官候補生トシテ何隊入隊	治明何年	何月日士官學校入校○何月日退校
治明何年	何月日何兵少尉○何月日正八位	治明何年	何月日一等給下賜○何月日何々ニ付何地へ派遣(巡回)何月日歸著 (辭令アルモノニ限ル)
治明何年	何月日何國留學何月日出發何月日歸朝○何月日何聯隊附(何課附)	治明何年	何月日何々委員陸軍省辭令ニ限ル○何月日軍法會議判士長(判士)
治明何年	何月日免第何聯隊附(本職)第何聯隊附(何職)「何月日後備役」	治明何年	何月日ヨリ何月日迄何隊ニ於テ勤務演習

陸軍兵籍規則

千五



- (合圍)地境內ニ於テ服役シタルトキハ其始終ノ月日又外國ノ鎮戍ニ編入セラレタル者ハ内國港灣並ニ該國港灣發著ノ月日ヲ記載スヘシ
- 五 父母祖父母兄弟姊妹ハ同戶籍中ノ者ヲ記載スヘシ
- 六 妻ノ區畫合式婚姻トハ陸軍武官結婚條例ニ依リ結婚シタルモノヲ謂ヒ婚姻トハ軍籍ニ入ラサル前婚姻シタルモノヲ謂フ

料紙西ノ内紙

九 寸

兵科「何兵」	所管	何師團何聯	何府(縣)	官等	氏名	某長(次)男(兄)(弟) (戶主)		
	族籍	華(士)族 (平民)					本籍	何郡(區)市(町)村(番地)
入隊	何兵(士官候補生)トシテ何年何月何日何隊へ入隊	適任	何年何月何日	電信術或ハ何々	誕生	何年何月何日	死亡	何年何月何日何地ニ於テ(病)死
現役年期	何箇年	何年月日ヨリ何年月日ニ至ル	備		額		顔	
再服役年期	何箇年	同			鼻		痘	

九十九

豫備役年期	何箇年何箇月	同	考	眉	鬚
後備役年期	何箇年	同		痘	
免役除役	何年何月日何々ニ依リ免役(免官)(除役)		別		
公傷公病	何年何月日何地ニ於テ何々ニ依リ何傷(病)ヲ受ク		妻	何年何月日合式婚姻(婚姻)	何某長(次)女某
褒	何年何月日褒賞休業何日間○何年何月日善行證書ヲ賜フ		子	嗣子長男(養子) 某何某日生 長女 某何某日生 次男 某何某日生	
賞			父	「某」祖	「某」
刑	何年何月日何々ノ科ニ依リ輕營倉(禁足)何日間		母	「某」祖	「某」
罰			兄弟	兄(弟)某何某日生	
			姊妹	姊(妹)某何某日生	

第二種陸軍兵籍

陸軍出身 前ノ履歷 何年何月日何省御用掛

陸軍兵籍規則

陸軍出身後ノ履歴

年何治明	年何治明	年何治明	年何治明
何月日何々トシテ何隊へ入隊○何月日卒業○何月日伍長○同日歩兵第何聯隊附○何月日何中隊附	何月日何々トシテ何隊へ入隊○何月日卒業○何月日伍長○同日歩兵第何聯隊附○何月日何中隊附	何月日何學校入校何月日退校○何月日一等給下賜○何月日曹長	何月日給養掛(何々書記)○何月日第何聯隊附免何司令部附
何月日長途行軍(野營演習)トシテ何地へ出發何月日歸著	何月日何々ニ付何地へ派出何月日歸著○何月日何々助教	何月日何ヨリ何月日迄何隊ニ於テ勤務演習	

- 一 賞罰ハ陸軍出身以來ニ係ハルモノヲ掲ク但生徒中ノ罰科ハ記載セス
- 二 陸軍出身後ノ履歴ハ逐年順次ニ記載スヘシ若シ某ノ年間記スヘキ事項ナキトキト雖モ空畫ヲ置カサルモノトス
- 三 任免命課等ノ月日ハ辭令ノ日ヲ記載スルモノトス
- 四 出戰務ハ朱書スヘシ但出戰軍ニ編入セラレタル者外國戰ニ當リテハ内國港灣發著ノ月日内國戰ニ當リテハ戰地ニ臨ミタル月日及戰地ヲ去リタル月日、臨戰(合圍)地境内ニ於テ服役シタルトキハ其始終ノ月日又外國ノ鎮戍ニ編入セラレタル者ハ内國港灣並該國港灣發著ノ月日ヲ記載スヘシ
- 五 等級ハ現等ヲ記載ス但二等卒ハ記載スルニ及ハサルモノトス



六 父母祖父母兄弟姊妹ハ同戶籍中ノ者ヲ記載スヘシ  
 七 妻ノ區畫合式婚姻トハ陸軍武官結婚條例ニ依リ結婚シタルモノヲ謂ヒ婚姻トハ軍籍ニ入ラサル前結婚シタルモノヲ謂フ

●陸軍省令第十五號 (明治三十年五月二十二日)

陸軍戰時名簿規則

第一條 陸軍戰時名簿ハ陸軍軍人軍屬及兵役義務アル者動員以後身上ニ關スル必要ノ諸件ヲ登記スルモノトス

第二條 陸軍戰時名簿ハ分テ第一種及第二種トス

第一種戰時名簿(第一様式)ハ將校同相當官准士官、第二種戰時名簿(第二様式)ハ下士兵卒雜卒職工ヲ包含ス以下同シ補充兵國民兵軍屬ニ用ユ

第三條 戰時名簿ハ將校同相當官准士官下士兵卒ノ始メテ任官サレタルトキ又ハ入隊シタルトキ軍隊官衙學校教導團ヲ包含ス以下同シニ於テ調製スヘシ

第一補充兵ノ戰時名簿ハ始メテ其ノ役ニ就クトキ聯隊區司令部警備隊區ニ在テハ同ニ於テ調製スヘシ但人相ハ本人ノ始メテ召集ニ應シタルトキ聯隊區司令部ヨリ名簿ヲ召集部隊ニ送付シ該部隊ニ於テ之ヲ記入スルモノトス

第一國民兵ノ戰時名簿ハ編入前調製ノモノヲ以テ之ニ充テ第二補充兵及第二國民兵ノ戰時名簿ハ其ノ召集ニ應シタルトキ諸部團隊ニ於テ調製スヘシ

第四條 戰時名簿ハ復員後更ニ之ヲ調製シ舊名簿ニ記載スル叙位叙勳任官進級其ノ他履歷中主要ノ事項ヲ兵籍ニ轉載スヘシ但第一國民兵ノ名簿ハ更ニ調製スルヲ要セス

第五條 留守擔當者ノ氏名現役將校同相當官ノ寄留地及動員前ノ所屬ハ應用ノ際軍隊官衙學校ニ於テ記入スルモノトス但師團長ハ平時ヨリ之ヲ記入スルノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六條 豫備役後備役下士兵卒第一補充兵元下士以下ナル第一國民兵ノ戰時名簿ニ記載スル人相ハ召集ノ際諸部團隊ニ於テ本人ニ照合シテ訂正スルモノトス

第七條 戰時名簿ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ備フヘシ

在職將校同相當官准士官現役下士兵卒歸休兵ヲ除ク軍屬ハ軍隊官衙學校

休職停職豫備役後備役將官同相當官ハ師團司令部其ノ召集中ハ諸部團隊

休職停職豫備役後備役上長官士官同相當官准士官豫備役後備役下士兵卒歸休兵第

一補充兵ハ聯隊區司令部其ノ召集中ハ諸部團隊

第一國民兵ノ戰時名簿ハ本籍地市區役所町村役場戶長役場及之ニ準スヘキモノ

第八條 第一國民兵役ニ轉入シタル者ノ戰時名簿ハ聯隊區司令官警備隊區ニ在テハ警備隊司令官

リ本籍地ノ島司郡市區長ニ送付スヘシ島司郡長ニ在テハ町村長戶長及之ニ準スヘキ者ニ送付スヘシ

第九條 轉職轉役及在郷者ノ轉籍等所屬ヲ轉換シタル者ノ戰時名簿ハ舊所屬ヨリ新所屬ニ送付スヘシ但現役ヨリ第一國民兵役ニ轉入シタル者ノ戰時名簿ハ聯隊區司令部ニ送付スヘシ

第十條 士官候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、見習軍吏ノ戰時名簿ハ戰役中動員ヲ行ヒタル諸部團隊ニ附屬シタルトキ其ノ諸部團隊ニ於テ本人ノ階級ニ應シ將校下士兵卒ニ準シテ調製スヘシ

附則

第十一條 第一國民兵戰時名簿ハ從前ノ名簿ヲ以テ之ニ充テ漸次改正ノ名簿ニ改ムルモノトス

料紙西ノ内半葉

九寸

〔内ハ孰モ朱書〕

長川

族籍 〔華(士)族 (平民)〕	本籍	〔何府(縣)何郡 (市)(區)何町 (村)何番地〕	官名	何兵大尉	氏	〔某長(次)男(兄) (弟)(戸主)〕	
	寄留	〔記載方右ニ同 シ〕	位階	從四位	名	〔爵 何 某〕	
動員前 ノ所屬	〔在郷將校同相當官 及准士官ニ在テハ其所 ノ所屬聯(大隊)〕	動員後	何兵第何	誕生	何年月日	死亡	〔何年月日何 地ニ於テ戰病 死〕
賞典	動員後ニ係ルモノヲ記載ス	刑罰	動員後ニ係ルモノヲ記載ス				
動員後履歷	<p>〔明治何年何月何日第何師團參謀被 仰付○何月何日何地出發同何日何地 上陸○何月何日何地ニ於テ戰闘○何 月何日任少佐同日第何聯隊第何大隊 長被仰付○何月何日何地ニ於テ戰闘 ノ際何部ニ貫通銃傷ヲ受ケ何地病院 ニ入ル○何年何月全癒退院何地ヲ經 何月何日復隊○何月何日何々ノ功ニ 依リ何々ニ叙セラレ何勳章ヲ賜フ○ 何月何日何地出發同何日何地ニ於テ 乘船同何日何地ニ上陸何月何日凱 旋〕</p>						
動員前畧履歷	<p>〔明治何年何月何日士官候補生トシ テ何隊ニ入ル○何年何月何日任少尉 ○何年何月何日叙正八位○何年何月 何日任中尉○何年何月何日叙從七位 ○何年何月何日一等給○何年何ノ役 何隊附ヲ以テ從軍○何年何月何日任 大尉何中隊長ニ補セラル○何年何月 何々ニ依リ謹慎何日○何年何月何日 中隊長ヲ免シ何々ニ補セラル○何年 何月何々ノ功ニ依リ何々〕</p>						

第一種戰時名簿

料紙西ノ内紙半葉

九寸

〔記載方ハ其梗概ヲ示スノミ宜シク類ヲ推シテ記載スヘシ(動員前畧履歷)ノ區畫ニハ任官叙位叙勳ニ關シ調査上必要ノ事項ヲ記載シ(動員後履歷)ノ區畫ニハ動員後平定迄ニ係ル任官叙位叙勳功績其ノ他主要ナル經歷ヲ記載スヘキモノトス〕

留守擔當者ノ住所氏名

族籍	〔華(士)族 (平民)〕	本籍	〔何府(縣)何郡 (市)(區)何町 (村)何番地〕	官名	何兵何等	氏	〔某長(次)男(兄) (弟)(戸主)〕
認識	第何番	寄留	〔記載方右ニ同 シ〕	等級	〔二等卒〕	氏	〔爵 何 某〕
票番號							

特業		動員前ノ所屬	賞典	人幹	相懸	動員後履歷		動員前畧履歷	
擔架術 或ハ何入隊	明治何年何月何日	何聯隊區ノ所屬	動員後ニ係ルモノヲ記載ス	顔	髮	動員後ニ係ルモノヲ記載ス	刑罰	動員後ニ係ルモノヲ記載ス	「明治何年何月何日任何官(一等卒被申付)〇何年何月何日豫備役編入〇何年何月何日充員召集ニ應シ何隊ニ編入〇何年何月何日陸〇何月何日何地ニ於テ戰闘〇何月何日任何官〇何月何日何々ノ功績アリ〇何月何日何々ニ依リ重禁錮二箇月ニ處セラル〇何月何日何地戰闘ノ際何々部ニ貫通銃傷ヲ
隊徴兵トシテ何	位階	何兵第何	動員後ニ係ルモノヲ記載ス	額	眉	動員後ニ係ルモノヲ記載ス	誕生	何年月日	「何年何月何日何地ニ於テ
隊	勳等	聯(大)隊	動員後ニ係ルモノヲ記載ス	眼	痘	動員後ニ係ルモノヲ記載ス	死亡	何年月日	戰(病)死
隊	功	第何中隊	動員後ニ係ルモノヲ記載ス	鼻	徵別	動員後ニ係ルモノヲ記載ス	再	自明治何年何月何日至何年何月何日	
隊	何何級		動員後ニ係ルモノヲ記載ス	口	役服	動員後ニ係ルモノヲ記載ス	自明治何年何月何日至何年何月何日		
隊	名		動員後ニ係ルモノヲ記載ス		月何日	動員後ニ係ルモノヲ記載ス			

第二種戰時名簿

受ケ即日何病院ニ入ル〇何月何日全癒退院何補充隊ニ編入〇何月何日召集解除	留守擔當者ノ住所氏名
「記載方ハ其梗概ヲ示スノミ宜シク類ヲ推シテ記載スヘシ(動員前畧履歷)ノ區畫ニハ任官叙位叙勳ニ關シ調査上必要ノ事項ヲ記載シ(動員後履歷)ノ區畫ニハ動員後平定迄ニ係ル任官叙位叙勳功績其他主要ナル經歷ヲ記載スヘキモノトス	

●陸軍第十三號 (明治十四年四月廿五日)

陸軍武官結婚條例

- 第一條 凡ソ軍人ハ最モ其品位ヲ重ンス故ニ其配偶ヲ擇ミ以テ終身ノ活計ヲ維持セシメ家政ヲ納メテ以テ其職掌ヲ確守セシム若シ配偶其匹ヲ擇ハス之ヲ輕忽ニセハ一ハ以テ其品位ヲ傷ケ一ハ以テ其營生ニ煩ハサレ遂ニ其職掌ヲ汚シ隨テ全軍ノ精カヲ殘フニ至ル仍テ左ニ其制限ヲ設ク
- 第二條 凡ソ軍人ノ結婚セント欲スル者將官竝ニ同等官ニ在テハ勅許ヲ仰キ准士官以上ニ在テハ陸軍卿ノ許可ヲ受クヘシ
- 第三條 下士卒常備服役中ハ結婚スルヲ許サス然レモ再服役以上ノ下士竝ニ豫備後備軍服役中ノ下士卒ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ受ケ結婚スルヲ得但憲兵竝會計軍醫馬醫軍樂各部ノ下士卒徵兵令ニ依リ徵集シタル看病卒ヲ除ク及ヒ砲兵監護工兵監護ニ在テハ常備服役中ト雖モ所管長官ノ許可ヲ得テ結婚スルヲ得
- 第四條 結婚ノ許可ヲ得ントスル者ハ第一號書式ニ照シ出願スヘシ
- 第五條 將官竝ニ同等官ニ在テハ陸軍卿與書シ准士官以上ニ在テハ所管長官下士以下ニ在テハ所屬隊長(課長)豫備及ヒ後備軍下士以下ニ在テハ後備軍使府縣駐在官

奥書スヘシ

第六條 其娶ルヘキ婦人ハ行狀端正ノ者ニ非レハ結婚スルヲ許サス故ニ其行狀ヲ證スル爲メ第二號書式ニ照シ其婦ノ所在地戸長ノ調印シタル身元証書ヲ添ヘシ

第七條 現役士官竝ニ同等官以下ニ在テハ家計保護金トシテ左ノ金額ヲ納メシメ陸軍省ニ之ヲ保存シテ以テ其生計ヲ保護セシム故ニ結婚出願ノ時第三號書式ノ證書ヲ出スヘシ

大尉竝同等官

四百六拾圓

中小尉竝同等官

六百圓

准士官

八拾圓

下士

八拾圓

第八條 第三條但書ニ載スル諸卒ニ在テ結婚スル時ハ第七條ニ準シ家計保護金ヲ納メシム其ノ金額ハ下士ニ同シ

第九條 第七條ノ金額ハ本人又ハ其娶ルヘキ婦人ノ所有或ハ雙方ノ所有ヲ合シタルモ妨ケナシ但シ公債證書ヲ以テ納ムルモ妨ケナシト雖モ大藏省定ムル所ノ價格ヲ以テ之ヲ算シ第七條ノ金額ニ相當セシム

第十條 結婚ヲ整ヘタル時ハ其旨速ニ届出ヘシ但シ家計保護金ハ本文届出同時ニ差出ヘシ

第十一條 家計保護金ヲ還付スルハ左ノ項目ニ依ルヘシ

第一項 上長官ニ昇進セシ時

第二項 恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル時

第三項 本人死歿スルカ又ハ現役ヲ離ル、時

第四項 其妻離別スルカ又ハ死亡シタル時

第五項 天災地變ニ罹リ家産擧テ滅亡シタル時

第十二條 結婚願書式竝ニ證書式左ノ如シ

第一號書式

結婚願

使府縣國郡區町  
村族籍職業

何某何女(姉)(妹)

某

年月日生

年號月何年何ヶ月

某儀

今般熟談ノ上右ニ記載ノ者ト結婚致シ度依テ別紙身元證書(家計保護金證書)  
相添差出候間御許可被下度此段奉願候也

年號月日

官

姓

名印

太政大臣(陸軍卿)(所管長官)宛

前書之趣篤ト取調候處不都合無之ニ付御許可相成度候也

陸軍卿(所管長官)(何隊長)(何課長)

官

姓

名印

第二號書式

身元證書

使府縣國郡區町村  
族籍職業

何某何女(姊)(妹)

某

年號月日生  
年號月何年何ヶ月

右ハ行狀端正ノ者ニ有之候此段致保護證候也

使府縣國郡區町村  
戸長アラサ  
ル地ハ區長

年號月日

姓

名印

第三號書式

家計保護金證書

一金何百何拾圓也

右ハ今般結婚奉願候ニ付御許可ノ上ハ家計保護金トシテ可差出候也

年號月日

官

姓

名印

三十三年  
五月勅令  
第二百十  
四號參看

●勅令第二百二十六號 (明治三十一年十月一日)

陸軍士官學校條例

第一條 陸軍士官學校ハ陸軍各兵科士官候補生ヲ以テ生徒ト爲シ初級士官タルニ必  
要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其綱領ハ教育總監之ヲ定ム

第三條 生徒教育ノ實施ハ教則ニ依ル該教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ  
教育總監ノ認可ヲ請ケ之ヲ定ム

第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 少將大佐

副官 大中尉

教官 中少佐、大中尉、軍醫、陸軍教授、陸軍助教

生徒隊長 中少佐

生徒隊中隊長 大尉

生徒隊附 中尉



軍醫

獸醫

軍吏

准士官、下士、判任文官

第五條 校長ハ教育總監ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條 軍事學教官ハ軍事學各科ノ授業ヲ分擔シ佐官教官ヲ以テ各科ノ科長トス

第八條 馬術教官ハ生徒ノ馬術訓練ニ任シ兼テ校庭一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第九條 文官教官ハ外國語學ノ授業ヲ分擔ス

第十條 生徒隊長ハ生徒隊ヲ統ヘ生徒ノ訓育ヲ監督シ各中隊長ヲシテ擔任ノ訓育ニ任セシメ校長ニ對シ齊一進歩ノ責ニ任ス

第十一條 中隊長ハ生徒隊附士官ヲ指揮シ中隊生徒ノ訓育ヲ擔任シ其成績ニ就テハ專ラ擔保ノ責ニ任ス

第十二條 生徒隊附士官ハ生徒訓育ノ諸科目ヲ分擔シ日常生徒ノ躬行ヲ監視シ分擔

ノ訓育ニ就テハ其責ニ任ス

第十三條 生徒ノ修學期ハ毎年十二月一日ヨリ翌年十一月下旬ニ至ル十二箇月トス

第十四條 生徒ノ諸給與ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル

第十五條 生徒入校中ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十六條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第十七條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

一 學術ノ豫習全カラスシテ實際修學ノ識力ニ乏シク卒業ノ目途ナキ者

二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

三 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

四 傷疾疾病ニ依リ修學ニ堪ヘサル者

五 卒業試験ニ落第セシ者

第十八條 前條第一第四及第五項ニ該當シ退校セシメシ士官候補生ニシテ尙望ミア

ル者ハ次ノ學期ニ於テ入校セシムルコトヲ得

第十九條 生徒中疾病及其他ノ事故ニ依リ修學期內ニ所定ノ學術ヲ修メ得サル者又

ハ卒業試験ヲ受ケ得サル者ハ猶滯學ヲ命スルコトヲ得

陸軍士官學校條例

ク二

- 第二十條 本條例第十七條及第十九條ニ該ル者アルトキハ校長其事由ヲ具シ教育總監ニ上申シ教育總監之ヲ裁定處分ス
- 第二十一條 生徒修學期末ニ至レハ校長ハ卒業試験規格ヲ撰シ教育總監ニ上申ス教育總監ハ之ヲ裁定シ校長ヲシテ卒業試験ヲ行ハシム
- 第二十二條 卒業試験ヲ終レハ校長ハ各教官生徒隊長及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ成績ヲ調査シ考科列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ請ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス
- 第二十三條 卒業證書ヲ附與シタル者ニハ校長直ニ歸隊ヲ命ス
- 第二十四條 滯學ヲ命セラレタル生徒修學ヲ終レハ前諸條ニ準シテ取扱フモノトス
- 第二十五條 生徒ニハ三週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得
- 第二十六條 教官、中隊長及生徒隊附士官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

勅令第二百二十八號 (明治三十一年十月一日)

陸軍中央幼年學校條例

- 第一條 陸軍中央幼年學校ハ陸軍地方幼年學校卒業者ヲ以テ生徒ト爲シ地方幼年學校ノ教育ニ連繫シテ士官候補生タルニ必要ナル普通學科及軍人ノ豫備教育ヲ爲シ陸軍各兵科士官候補生ト爲スヘキ者ヲ養成スル所トス
- 第二條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其綱領ハ教育總監之ヲ定ム
- 第三條 生徒教育ノ實施ハ敎則ニ依ル該敎則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ之ヲ定ム
- 第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 大中佐
- 副官 大中尉
- 教官 大中尉、陸軍教授、陸軍助教
- 生徒隊中隊長 大尉
- 生徒隊中隊附 中尉

三十三年  
五月二十  
五號參看

軍醫

獸醫

軍吏

准士官、下士、判任文官

第五條 校長ハ教育總監ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任シ東京陸軍地方幼年學校ヲ管轄ス

第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條 馬術教官ハ生徒ノ馬術訓練ニ任シ兼テ校廐一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第八條 文官教官ハ各學科ノ授業ヲ分擔ス

教官中適任者一名ヲ選テ教頭ト爲シ教授部全般ノ授業ヲ監視シ校長ニ對シ齊一進歩ノ責ニ任セシム

第九條 中隊長ハ中隊附士官ヲ指揮シ中隊生徒ノ訓育ヲ擔任シ軍人精神ヲ涵養シ生徒ヲシテ軍紀ニ慣熟セシメ其成績ニ就テハ專ラ擔保ノ責ニ任ス

第十條 中隊附士官ハ生徒訓育ノ諸科目ヲ分擔シ日常生徒ノ躬行ヲ監視シ自ラ模範

ト爲リテ之ヲ指導シ分擔ノ訓育ニ就テハ其責ニ任ス

第十一條 生徒ノ修學期ハ九月一日ヨリ翌翌年五月下旬ニ至ル二十一箇月トシ之ヲ二學年ニ分テ各學年ハ九月一日ヨリ開始ス

第十二條 生徒ノ修學ニ所要ノ器具及圖書等ハ貸與又ハ支給スルコトヲ得

第十三條 陸軍地方幼年學校條例第十二條乃至第十八條ノ規定ハ本校生徒ノ爲メニモ亦之ヲ適用ス

第十四條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第十五條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

一 學術ノ修得全カラスシテ卒業ノ目途ナキ者

二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

三 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

四 傷痍疾病ニ依リ修學ニ堪ヘサル者

五 卒業試験ニ落第セシ者

第十六條 生徒中各學年ニ於テ所定ノ學術ヲ修メ得サル者或ハ疾病等ニ依リ卒業試験ヲ受ケ得サル者又ハ卒業試験ニ落第セシ者ト雖モ尙望ミアル者ハ滯學補修ヲ爲

三十二年  
五月勅令  
第八十八號  
參看

サシメタル後チ卒業セシメ又ハ一學年延期修學セシムルコトヲ得但滯學日數ハ士官候補生教育ニ支障ナキ度トシ又延期ハ全學期ヲ通シテ一回限リトス

第十七條 生徒中卒業試験ニ及第スルモ傷痍疾病等ニテ士官候補生ト爲スヲ得サル者ニハ單ニ卒業證書ヲ附與シテ退校セシム

第十八條 前三條ニ該ル者アルトキハ校長其事由ヲ具シ教育總監ニ上申シ教育總監之ヲ裁定處分ス

第十九條 生徒修學期末ニ至レハ校長ハ卒業試験規格ヲ撰ヒ教育總監ニ上申ス教育總監ハ之ヲ裁定シ校長ヲシテ卒業試験ヲ行ハシム

第二十條 卒業試験ヲ終レハ校長ハ各教官及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ成績ヲ調査シ考科列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ請ケ及第者ニハ卒業證書ヲ附與ス

第二十一條 教育總監ハ前條卒業者中士官候補生トナスヘキ者ヲ定メ士官候補生ヲ命シ各隊ニ配賦ス

前項士官候補生ヲ命セラレタル生徒ニハ入隊前ニ於テ一週間以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ得

第二十二條 滯學ヲ命セラレタル生徒補修終レハ前諸條ニ準シテ取扱フモノトス

第二十三條 每年生徒ニ五週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

第二十四條 教官、中隊長及中隊附士官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

附則

第二十五條 明治三十二年前入學ノ本校生徒ハ其卒業ニ至ル迄本條例第十一條及第十三條ノ規定ハ左ノ各條ニ據リ取扱フ

第二十六條 生徒修學期ハ概テ三箇年トシ各學年ハ毎年九月ニ始メ而シテ第三年ニ在リテハ五月ニ終ル

第二十七條 生徒ハ官費、半官費、自費ノ三種ニ分ツ

官費生徒ハ一切ノ經費ヲ官給シ且手當金ヲ給ス半官費生徒ハ小被服、賄料ノ經費自費生徒ハ被服、糧食一切ノ經費ヲ納メシム其金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第二十八條 戰死又ハ公務ノ爲メ死亡シタル高等官ノ孤兒ハ官費生徒トス

第二十九條 前條ノ外官費、半官費、自費生徒ノ區分ハ教育總監之ヲ裁定ス

三十三年  
五月勅令  
第二百十  
六號參看

●勅令第二百二十九號 (明治三十一年十月一日)

陸軍地方幼年學校條例

第一條 陸軍地方幼年學校ハ陸軍將校ニ出身志願ノ者ヲ選抜シテ生徒ト爲シ軍事上ノ必要ヲ顧慮シテ普通學科ヲ教授シ軍人精神ヲ涵養シ陸軍中央幼年學校生徒ト爲スヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 陸軍地方幼年學校ハ左ノ六箇所ニ置ク

東京 仙臺 名古屋 大阪 廣島 熊本

第三條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其綱領ハ教育總監之ヲ定ム

第四條 生徒教育ノ實施ハ教則ニ依ル該教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ

教育總監ニ上申シ 東京陸軍地方幼年學校長ニ在テハ陸軍中央幼年學校長ヲ經由ス以下倣之 教育總監之ヲ裁定ス

第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 少佐

副官 中尉

教官 陸軍教授、陸軍助教

生徒監

大中尉

軍醫

軍吏

下士、判任文官

校長以下將校同相當官及下士ハ豫備役ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得其身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第六條 校長ハ教育總監 東京陸軍地方幼年學校長 陸軍中央幼年學校長ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第七條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第八條 教官ハ各學科ノ授業ヲ分擔ス

教官中適任者一名ヲ選テ教頭ト爲シ教授部全般ノ授業ヲ監視シ校長ニ對シ齊一進歩ノ責ニ任セシム

第九條 生徒監ハ生徒ノ訓育ヲ擔任シ軍人精神ヲ涵養シ日常其躬行ヲ監視シ自ら模範ト爲リテ之ヲ指導シ其成績ニ就テハ專ラ擔保ノ責ニ任ス

第十條 生徒ノ修學期ハ九月一日ヨリ第四年ノ八月下旬ニ至ル三十六箇月トシ之ヲ

三十二年五月勅令第九號參看

三箇年ニ分チ各學年ハ毎年九月一日ヨリ開始ス

第十一條 生徒ノ修學ニ所要ノ器具及圖書等ハ貸與又ハ支給スルコトヲ得

第十二條 生徒ハ總テ校內ニ寄宿セシム

生徒ハ入學中被服、糧食其他ノ費用トシテ若干ノ納金ヲ爲スモノトス之ヲ自費生ト稱ス

第十三條 生徒中左ノ各項ニ該ル者ハ列記ノ順序ニ從ヒ資産ヲ顧慮シ若干名ヲ限リテ特ニ納金ノ全額ヲ免除スルコトヲ得之ヲ特待生ト稱ス

一 戰死及戰傷ニ依リ死歿シ又ハ戰役中危難ヲ冒シタルニ起因シテ死歿シタル陸海軍將校及相當官並ニ高等文官ノ孤兒

二 現職中公務ノ爲メニ死歿シタル陸海軍將校及同相當官ノ孤兒

三 增加恩給權ヲ得タル陸海軍將校及同相當官ノ孤兒

四 恩給權ヲ得タル陸海軍將校及同相當官ノ孤兒

五 特ニ國家ニ功勞アル高等官ノ孤兒

第十四條 生徒中左ノ各項ニ該ル者ハ列記ノ順序ニ從ヒ資産ヲ顧慮シ若干名ヲ限リテ特ニ納金ノ内帽、日覆、絨衣袴 肩章 夏衣袴、外套及精米料ヲ免除スルコトヲ得之ヲ半特待生ト稱ス但前條ノ各項ニ該ル者ノ内特待生ト爲サル者ハ之ヲ半特待生

三十三年一月勅令第八號參看

ト爲スコトヲ得

一 現職ニ在ル陸海軍尉官及同相當官ノ兒子

二 恩給權ヲ得タル陸海軍尉官及同相當官ノ兒子

三 陸海軍少佐及同相當官ニ名譽進級ヲ爲シタル者ノ兒子

第十五條 家督相續者タル養子ハ前二條中ノ孤兒或ハ兒子ニ準ス

第十六條 特待生半特待生ト爲スヘキ人員及其區分ハ教育總監陸軍大臣ニ協議シテ

之ヲ定ム

第十七條 本條例中孤兒及兒子ハ總テ同戶籍内ニ現在スルモノニ限ル又一家ヨリ重

複シテ特待ヲ受クルヲ得サルモノトス

第十八條 特待生、半特待生及自費生ノ納金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十九條 生徒中止ムヲ得サル事故アリテ退校ヲ願出ル者アルトキハ其事情ニ依リ

之ヲ許スコトアルヘシ

第二十條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

一 學術ノ修得全カラスシテ卒業ノ目途ナキ者

二 屢法則ヲ犯シ又ハ品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

三 傷痍疾病ニ依リ修學ニ堪ヘザル者

四 卒業試験ニ落第セシ者

第二十一條 生徒中各學年ニ於テ所定ノ學科ヲ修メ得サル者或ハ疾病等ニ依リ卒業

試験ヲ受ケ得サル者又ハ卒業試験ニ落第セシ者ト雖モ尙望ミアル者ハ一學年延期

修學セシムルコトヲ得

第二十二條 前三條ニ該ル者アルトキハ校長其事由ヲ具シ教育總監ニ上申シ教育總

監之ヲ裁定處分ス

第二十三條 生徒修學期末ニ至レハ校長ハ卒業試験規格ヲ撰シ教育總監ニ上申ス教

育總監ハ之ヲ裁定シ校長ヲシテ卒業試験ヲ行ハシム

第二十四條 卒業試験ヲ終レハ校長ハ各教官生徒監ヲ集メ會議ヲ開キ成績ヲ調査シ

考科列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ請ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス

第二十五條 教育總監ハ地方幼年學校長ヲシテ前條卒業者ニ中央幼年學校へ入學ヲ

命セシム

第二十六條 前條ノ生徒ハ中央幼年學校ニ入校ノ期日ニ至ル迄休暇ヲ與ヘ歸省又ハ

他行ヲ許スコトヲ得但此間ニ於ケル生徒ノ身分ハ地方幼年學校ニ屬ス

第二十七條 每年生徒ニ五週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

三十二年  
四月勅令  
第四百十五  
號參看

●勅令第四百四十一號 (明治二十八年十月四日)

陸軍六週間現役兵條例

- 第一條 徵兵令第十三條第三項ニ依リ六週間陸軍現役ニ服セシムヘキモノハ教職ニ就キタル年若クハ其翌年ニ於テ其居住地師管内ノ歩兵隊ハ警備隊ヲ置ク島嶼ニ在テハ最寄ノ歩兵隊ニ編入シ服役セシム
- 第二條 六週間現役兵ノ入營期日ハ毎年六月二日臺灣ニ在テハ十月一日トス但疾病其ノ他ノ事故ニ依リ期日ヨリ三日以内ニ入營シ難キモノハ翌年徵集ス
- 第三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ其徵集ヲ延ハスコトアルヘシ
- 第三條 現役服役日數ハ入營期日ヨリ起算ス
- 第四條 六週間現役兵ノ教育ハ聯隊長獨立大隊ニ在テハ隊長警備隊ニ在テハ司令官以下之ニ倣フ其責ニ任ス
- 第五條 六週間現役兵中勤務勉勵品行方正ニシテ第二國民兵ヲ以テ編成スル部隊ノ幹部タルヲ得ヘキ材幹アルモノニハ聯隊長其成績ヲ具シ順序ヲ經テ師團長臺灣ニ在テハ旅團長ノ認可ヲ受ケ國民軍幹部適任證書ヲ授與ス
- 第六條 六週間現役兵ノ身體檢査ハ入營スヘキ年ニ於テ一般ノ徵兵檢査ト同時ニ之



陸軍六週間現役兵條例

ケニ終

ヲ行フ徵集ニ適セサルモノハ徵兵検査規則ニ照シ處分ス

北海道臺灣及沖繩縣ニアル者ノ身體検査ニ關スル規定ハ陸軍大臣別ニ之ヲ定ム

第七條 検査往復旅費及入營旅費ハ官給ス

附則

第八條 北海道ニ在ル者ハ第七師管ニ常備歩兵隊ヲ置クマテハ第二師管ノ歩兵隊ニ編入シ服役セシム

第九條 本令ハ明治廿九年四月一日ヨリ施行ス

明治二十三年勅令第二十二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●陸軍省令第九號 (明治二十年四月五日)

陸軍六週間現役兵條例細行細則

第一條 六週間現役兵ノ身體検査ハ敎職ニ就キタル年居住地所在ノ聯隊區内又ハ警備隊區内便宜ノ徵兵署ニ於テ之ヲ行フ但其ノ年ノ入營期日ニ切迫シ若クハ入營期日後敎職トナリタル者ハ翌年廻トス

第二條 府縣廳ニ於テハ徵兵事務條例施行細則第一様式ニ準シ六週間現役兵名簿ヲ作り身體検査ニ先タチ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官沖繩警備隊區ニ在テハ該司令官以下同シニ送付シ検査ノ手續ヲ協議スヘシ但官立小學校ノ敎職モ亦本文同様該校所在府縣ニ於テ取扱フヘシ

第三條 聯隊區司令官警備隊司令官ハ六週間現役兵ノ身體検査ニ關シテハ尋常徵兵ト同一ノ取扱ヲ爲シ合格者ニハ附錄第一様式ノ合格證書ヲ付與シ其ノ名簿ヲ師團長ニ差出シ且其ノ成績ヲ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ通知スヘシ  
其ノ徵集ニ適セサル者ハ徵集延期免除又ハ兵役免除ノ處分ヲ爲シ徵集延期名簿ヲ北海道廳又ハ府縣廳ニ送付シ合格者竝ニ徵集延期者ノ人名書徵集免除名簿及兵役

三十一年  
三月省令  
第四號參  
看  
三十二年  
四月省令  
第九號參  
看

免除名簿ヲ本籍所管ノ島司郡市長、北海道ニ在テハ北海道廳支廳長、東京市、京都市、大阪市及沖繩縣ノ區ニ在テハ區長以下同シニ送付スヘシ

第四條 師團長ハ合格者在職地ノ遠近ニ應シ適宜之ヲ各隊ニ配付スヘシ

第五條 北海道及沖繩縣ニ在テハ師團長地方長官協議ノ上時宜ニ依リ教職ニ就クヘキ年身體檢査ヲ爲シ又北海道ニ在テハ居住地所在ノ聯隊區外ニ於テ身體檢査ヲ爲スコトヲ得

一 北海道ニ在ル者ハ札幌聯隊區司令部沖繩縣ニ在ル者ハ鹿兒島聯隊區司令部ニ在テ身體檢査ヲ行フ但北海道ニ在テ師範學校卒業ノ翌年以後ノ者ニ在テハ札幌聯隊區司令部又ハ函館聯隊區司令部若クハ該聯隊區内便宜ノ徵兵署ニ於テ行フ

二 北海道廳及沖繩縣廳ニ於テハ教職トナルヘキ年豫メ第二條ニ準シ名簿ヲ作り該聯隊區司令部ニ送付スヘシ

三 札幌聯隊區司令官ハ三月一日迄鹿兒島聯隊區司令官ハ成ルヘク五月二十五日ヨリ同月三十一日迄ノ間ニ於テ身體檢査ヲ行フヘシ但第一項但書ニ該ル者ハ此ノ限ニアラス

四 鹿兒島聯隊區司令官ハ合格者ノ人名書ヲ師團長ニ差出シ又其ノ名簿ヲ聯隊長ニ送付スヘシ

五 身體檢査ノ爲メ沖繩縣ヨリ鹿兒島聯隊區司令部ニ到ラシムヘキ者ハ縣官一名之ヲ引率セシムヘシ

第六條 身體檢査後入營前教職ヲ罷メタル者アルトキハ道廳府縣廳ヨリ直ニ師團司令部ニ通報スヘシ

第七條 臺灣ニ在ル者ノ身體檢査ハ左ノ諸項ニ依リ施行スヘシ

一 總督府ニ於テハ身體檢査ヲ受クヘキ者ヲ調査シ徵兵事務條例施行細則第一樣式ニ準シ六週間現役兵名簿ヲ作り最寄ノ歩兵隊ニ送付シ身體檢査ヲ施行セシムヘシ

二 歩兵隊長ハ第三條第一項ニ準シ身體檢査及徵否ノ取扱ヲ爲シ合格者ニハ合格證書ヲ付與シ合格者及徵集延期ニ屬スル者ノ名簿ヲ總督府ニ差出シ總督府ニ

於テハ第四條ニ準シ合格者ヲ各歩兵隊ニ配賦スヘシ

三 歩兵隊長ハ合格者及徵集延期ニ屬スヘキ者ノ人名書若クハ徵集ニ適セサル者ノ名簿ヲ添ヘ本籍所管ノ聯隊區又ハ警備隊區徵兵官ニ通知シ該徵兵官ハ其ノ徵集ニ適セサル者ノ處分ヲ爲スヘシ

第八條 六週間現役兵退營スルトキハ聯隊長獨立大隊ニ在テハ其ノ隊長警備ハ該名簿ヲ本籍所管ノ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送付シ聯隊區司令官警備隊司令官ハ之ヲ島司郡市長ニ送付スヘシ

條例第五條ニ依リ國民軍幹部適任證書ヲ授與シタル者アルトキハ聯隊長其ノ旨ヲ名簿ニ記載シ其ノ國民軍幹部適任證書ハ附錄第二様式ニ準シ調製スヘシ

第九條 國民軍幹部適任證書ヲ授與セラレタル者ニシテ懲戒處分ヲ受ケ又ハ家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ證書ヲ返還セシム

第十條 前諸條ニ掲クル者ノ外ハ師團長及道廳長官府縣知事協議ノ上之ヲ定メ臺灣ニ在テハ臺灣總督之ヲ定ムヘシ

附則

沖繩警備隊區ニ係ル事項ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス其以前ニ在テ警備隊區司令官ノ職務ハ聯隊區司令官之ヲ行フ

第一様式 用紙厚紙

陸軍六週間現役兵合格證書

府(縣)郡(市)町(村)  
某長(次)男(兄)弟(弟)本人戸主ナレハ  
戸主ト記スヘシ

氏 名

右検査合格ニ付此證書ヲ付與ス

年 月 日

何聯隊區司令官(警備隊司令官)氏 名 印

凡曲尺六寸

表

裏

心得

- 一 此證書ヲ所持スル者ノ入營期日ハ六月一日トス  
但疾病其他ノ事故ニ由リ期日ヨリ五日以内ニ入營シ難  
キ者ハ翌年徵集セラル、モノトス
- 二 戰時若クハ事變ニ際シテハ其徵集ヲ延ハスコトアルヘシ

第二様式 用紙烏ノ子紙

七寸八分  
五寸六分

第何號

國民軍幹部適任證書

府縣族籍

陸軍六週間現役兵 氏名

國民軍幹部適任ノ者

ト確認ス

明治何年何月何日

職官位勳功氏名

印職

(周圍ノ模様ハ畧ス)

●勅令第九十一號 (明治二十九年五月八日)

陸軍一年志願兵條例

三十二年  
四月勅令  
第四百十四  
號參看

第一條 徵兵令第十三條ニ據リ一年志願兵トナル者ハ服役スヘキ兵科及衛戍地ヲ選  
フコトヲ得

三十五年  
一月勅令  
第十五號  
參看

第二條 一年志願兵ニハ所屬隊ヨリ糧食、被服、裝具、兵器、彈藥ノ現品ヲ給シ被服費、  
裝具費、彈藥費及兵器修理費トシテ金六拾貳圓糧食費トシテ金四拾六圓ヲ納メシ  
ム又騎兵科ニ入ル者ニハ馬匹ヲ貸與シ馬糧費、裝蹄費、剔毛費及馬藥費トシテ更ニ  
金百九圓ヲ納メシム以上ノ金額ニテ不足ヲ生スルトキハ之ヲ追徵シ殘餘アルトキ  
ハ之ヲ還付シ兵器ハ本人滿期ノ際之ヲ返納セシム

第三條 一年志願兵ハ在營セシムルヲ例トス但本人ノ願ニ依リ聯隊長(聯隊ヲ爲サ  
サル隊ニ在テハ該隊長以下同シ)外泊ヲ許シ通勤セシムルコトヲ得

第四條 削除

第五條 一年志願兵ハ總テ無給料トス其檢査往復並ニ入營退營旅費亦自辨トス

陸軍一年志願兵條例

三一

第六條 削除

第七條 一年志願兵ハ現役満期ノ後六箇年四箇月間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシム

豫備役後備役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ算セス

第八條 一年志願兵志願者ハ其願書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ之ヲ一月三十一日迄ニ本籍ノ

島司郡市長（東京都大阪ノ三市及沖繩縣ノ區ニ在テハ區長北海道ニ在テハ北海道廳支廳長又ハ區長以下同シ）ヲ經テ居住地所管ノ師團長ニ差出スヘシ但徵兵令

第十三條ノ學校卒業者ハ卒業證書寫及戸主ニアラサルモノハ戸主二十歳未滿ノ者ハ戸主若クハ後見人及親權ヲ行フ父又ハ母ノ承認書ヲ添付スルヲ要ス

島司郡市長ハ志願者ノ身元資産並ニ犯罪有無ノ證明書ヲ製シ其願書ニ添附スヘシ第九條 前條ノ志願者ニシテ一月三十一日迄ニ徵兵令第十三條ノ學校ヲ卒業セサル者ハ其年十月三十一日迄ニ卒業スヘキ者ニ限リ學校長ノ證明書ヲ以テ卒業證書寫

ニ換フルヲ得但卒業ノ上ハ直ニ卒業證書寫ヲ添ヘ師團長ニ届出ヘシ

第十條 師團長ハ第八條ノ志願者中學術試験ヲ受クヘキ者ノ人員ハ各検査場ニ區分

シ二月二十日迄ニ教育總監ニ具申シ又人名書ヲ身體検査ヲ爲サシムヘキ軍醫ニ下付スルモノトス

第十一條 一年志願兵ノ學術試験格例ハ毎年陸軍大臣之ヲ告達ス

第十二條 師團長ハ學術試験ヲ受クヘキ者ノ身體検査日時ヲ定メ北海道廳長官府縣知事ニ通達シ本人ヲ検査地ニ召集ス

第十三條 師團長ハ軍醫ヲシテ學術試験ヲ受クヘキ者ノ身體検査ヲ爲サシメ其合格者ハ陸軍將校生徒試験臨時委員ヲシテ學術試験ヲ行ハシム

第十四條 師團長ハ試験ノ成績ニ依リ及第落第ヲ定メ及第者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ落第者ニハ其旨ヲ通知スヘシ

第八條但書ノ卒業者及第九條ニ當ル者ハ通常徵兵ト同時ニ身體検査ヲ爲シ合格者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ不合格者ニハ其旨ヲ通知スヘシ但第九條ニ當ル

三十三年五月勅令第四百四十一號參看  
三十四年五月勅令第四百四十一號參看

者ノ認定證書ハ同條但書ノ届出ヲ爲シタルトキ之ヲ付與スルモノトス

第十五條 一年志願兵入隊期日ハ毎年十二月二日トス

第十六條 一年志願兵認定證書ヲ受ケタル者ハ入隊スヘキ年ノ十一月三十日迄ニ第

二條ノ金額ヲ所屬隊ニ納付スヘシ但入隊前外泊ノ許可ヲ受ケタル者ハ第二條ノ糧食費ヲ控除シ納付スヘシ

第十七條 一年志願兵ノ教育ニ關シテハ聯隊長其責ニ任スルモノトス

第十八條 一年志願兵ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ通常教育ノ外特別ノ教育ヲ授ケ更ニ二箇月以上經過ノ後上等兵ト爲シ下士ノ勤務ヲ爲サシメ更ニ三箇月以上經過ノ後伍長ノ階級ニ進メ諸勤務ヲ練習セシム其ノ一等卒上等兵ヲ命シ及伍長ノ階級ニ進ムルハ聯隊長ニ於テスルモノトス

其服役滿期ニ際シテハ聯隊長終末試験委員ヲシテ終末試験ヲ爲サシメ其成績ヲ具シ師團長(旅團長ノ下ニ在ル聯隊長ハ旅團長ヲ經テ)ノ認可ヲ受ケ及第者ニハ終末試験及第證書ヲ授與シ軍曹ニ其落第者ハ伍長ニ任シ豫備役ニ編入ス

第十九條 削除

第二十條 削除

第二十一條 醫學、藥學、理財學若クハ商業學ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ歩兵隊ニ獸醫學ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊、野戰砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ於テ前半年間隊列勤務ヲ爲シ後半ノ初ニ於テ軍醫生、藥劑生、獸醫生トナリ各専門ノ勤務ニ練習スルコトヲ得志願ノ者ハ入隊ノ際其卒業證書寫ヲ添へ出願スヘシ

前項ノ獸醫生タラントスル者ハ第二條ノ馬匹ニ關スル納金ヲ要セス

第二十二條 前條ノ志願者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ更ニ二箇月ノ後上等兵ヲ命スヘシ

一等卒、上等兵ヲ命スルハ聯隊長ニ於テシ軍醫生、藥劑生、獸醫生ヲ命スルハ師團長ノ認可ヲ受ケ師團軍醫部長又ハ師團獸醫部長ニ於テスルモノトス

第二十二條ノ二 軍醫生、藥劑生又ハ獸醫生志願者ハ戰時又ハ事變ニ際シテハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ヲ經過シタル後上等兵ヲ命シ軍醫生、藥劑生又ハ獸醫生ト

爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 軍醫生ノ教育ハ該隊上級醫官、藥劑生ノ教育ハ衛戍病院長、獸醫生ノ教育ハ該隊上級ノ獸醫官各其責ニ任スルモノトス

第二十四條 軍醫生、藥劑生、獸醫生ハ曹長同等ノ取扱ヲ受クルモノトス

第二十五條 軍醫生、藥劑生、獸醫生ト爲シタル者ハ服役滿期ノ際軍醫部長若クハ獸醫部長終末試験委員ヲシテ終末試験ヲ爲サシメ其及第者ニハ（師團長ノ認可ヲ受ケ）終末試験及第證書ヲ授與シ豫備役ニ編入ス

其ノ落第者ニ在テハ軍醫生及藥劑生ニハ衛生部下士適任證書、獸醫生ニハ蹄鐵工長適任證書ヲ付與シ豫備役ニ編入ス

衛生部下士適任證書ハ軍醫部長、蹄鐵工長適任證書ハ聯隊長之ヲ付與ス

第二十五條ノ二 一年志願兵中疾病其ノ他ノ事故ニ由リ豫備士官タルヲ得ヘカラスト認ムル者ハ第十八條第二十一條第二十二條及第二十二條ノ二ニ依ラス通常ノ勤

務ニ服セシム

伍長ノ階級ニ進メタル後及軍醫生、藥劑生、獸醫生ヲ命シタル後前項ニ該當シタル者ハ伍長ノ階級、軍醫生、藥劑生、獸醫生ヲ免ス

第一項ニ當ル者ノ中下士タルヲ得ヘキ見込ノ者アルトキハ下士ノ勤務ヲ練習セシメ服役滿期ノ際其ノ成績ニ依リ下士適任證書ヲ付與シ又ハ第二十五條終末試験落第者ノ例ニ依ルコトヲ得

下士ノ勤務ヲ練習セシムル者ニシテ未タ上等兵トナラサルモノアルトキハ服役滿期迄ノ間ニ於テ之ニ上等兵ヲ命ス

上等兵ヲ命スルハ聯隊長ニ於テシ、下士適任證書ヲ付與シ及伍長ノ階級ヲ免スルハ師團長ノ認可ヲ受ケ聯隊長ニ於テシ、軍醫生、藥劑生、獸醫生ヲ免スルハ第二十二條第二項ノ例ニ準ス

第二十六條 師團長ハ毎年一年志願兵終末試験格例ヲ定メ豫メ之ヲ告達ス

第二十七條 終末試験委員ハ聯隊長之ヲ編成ス

軍醫生、藥劑生、獸醫生ノ終末試験委員ハ師團長之ヲ編成シ軍醫部長及獸醫部長ノ指揮ニ屬ス

第二十八條 第十八條及第二十二條ニ依リ上等兵ト爲シタル者ハ成ルヘク兵卒ト居室ヲ異ニシ將校ト共ニ會食セシム

第二十九條 一年志願兵ノ服制ハ別ニ定ムルモノ、外其階級ニ應シ各兵科ノ下士兵卒ト同一トス但軍醫生、藥劑生、獸醫生ハ該隊曹長ト同一トス軍醫生、藥劑生、獸醫生ハ之ヲ命シタル日ヨリ襟ニ特別ノ徽章ヲ附ス

第三十條 戰時若クハ事變ニ際シテハ一年志願兵ト雖モ通常ノ現役勤務ニ服セシムルコトアルヘシ

通常ノ現役勤務ニ服セシメタルトキハ階級相當ノ給料ヲ給シ服役ニ關スル費用ハ總テ之ヲ官費トス

第三十一條 第八條ノ願書ヲ差出シタル後入隊迄ノ間ニ於テ轉籍、轉住、氏名變更、犯罪、死亡其ノ他願書及其ノ添付書類ニ記載セル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ本

人又ハ其ノ親族ヨリ師團長ニ届出ツヘシ

第三十二條 一年志願兵認定證書ヲ所持スル者疾病其他止ヲ得サル事故ニ由リ十二月一日ニ入隊シ難キトキハ證明書類ヲ添へ入營延期ヲ該隊所管ノ師團長ニ出願スヘシ

前項ノ事故アル者十二月三十一日ヲ過ルモ入隊シ難シト認ムルトキハ師團長之ヲ次年廻シト爲シ聯隊長本人ニ通知スヘシ

第三十三條 一年志願兵入隊シタルキ若クハ次年廻シト爲リタルトキハ本籍所管聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ届出ヘシ

第三十四條 一年志願兵認定證書ヲ得タル者正當ノ事由ナクシテ其年十二月一日ニ入隊セサルトキハ一年志願兵ノ資格ヲ失フモノトス

第三十五條 一年志願兵中左ノ事項ニ當ル者ハ現役ヲ免シ第二國民兵役ニ服セシム但傷痍若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス  
一 傷痍若クハ疾病ニ依リ服役ニ堪ヘ難キトキ



二 本人ヲ要スルニ非サレハ家族自活シ能ハサル事故ヲ生シ其ノ家族ヨリ免役ヲ願出タルトキ

第三十六條 前條ノ家族自活シ能ハサル事故ニ由リ免役ヲ願出テントスル者ハ其ノ願書ニ近隣ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官沖繩警備隊區ニ在テハ該司令官ニ差出スヘシ但町村ニ於テハ町村長(町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ戸長又ハ之ニ準スヘキ者)ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス  
島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送付シ同官ハ之ニ意見ヲ附シ願書ト共ニ聯隊長ニ移スヘシ

第三十七條 第三十五條ニ當ル者アルトキハ聯隊長ハ師團長ノ認可ヲ受ケ之ヲ處分ス但シ一年志願兵認定證書付與後入隊前ノ者ニ在テハ師團長自ラ第二國民兵役ニ服セシメ若ハ兵役ヲ免スルノ處分ヲ爲ス

第三十八條 明治廿七年以前一年志願兵トシテ服役シタル者ノ豫備役後備役年期ハ第七條ニ依ル但明治二十四年以前一年志願兵トシテ服役シタル者ノ後備役年期ハ

豫備役年期ヲ通シテ十一年四箇月トス

第三十九條 臺灣總督府國語學校土語科ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ當分臺灣守備歩兵隊ニ於テ服役スルコトヲ得

第四十條 前條ニ依リ服役スル者ニ關シテハ本條例中師團長ノ職務ハ臺灣守備混成旅團長之ヲ行フ

混成旅團長ハ部下ノ將校及軍醫ニ一年志願兵検査委員ヲ命シ身體検査其ノ他徵募ノ事務ヲ取扱ハシムヘシ

第四十一條 第三十九條ニ依リ服役セント欲スル者ハ明治三十三年ニ限り七月三十一日迄ニ第八條ノ願書ヲ差出スコトヲ得

附則

本令ハ明治三十五年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令改正ノ際既ニ服役中ノ者若ハ翌年回トナリタル者ニハ仍舊第二條第四條第六條及第十六條ヲ適用ス

三十四年  
五月省令  
第八號參  
看  
三十五年  
二月省令  
第二號參  
看

三十三年  
五月省令  
第十一號  
參看

●陸軍省令第十二號 (明治二十九年五月十一日)

陸軍一年志願兵條例施行細則

第一條 條例第二條ニ依ル被服ノ給與ハ左ノ區別ニ依リ取扱フヘシ

一 第一種帽、前立、第二種帽、絨衣袴、略衣袴、夏衣袴、日覆、外套、脚絆、軍隊手牒  
ハ新品ヲ支給シ其ノ原價ヲ納付セシム

二 背囊、被服手入具、飯盒、水筒、寢具及前號ノ外同號品種中尙必要アルトキハ貯  
藏品ヲ貸與シ其ノ補修費ヲ納付セシム

三 前各號ノ外下士卒給與品ニ限り必要ニ應シ其ノ原價ヲ徴シテ特ニ支給スルコ  
トヲ得

第二條 糧食費ハ行軍若ハ野外演習中ト雖亦自辨トス

第三條 條例第八條ノ願書ハ附録第一様式ニ履歷書ハ第二様式ニ承認書ハ第三様式  
ニ證明書ハ第四様式ニ依リ之ヲ作ル可シ

第三條ノ二 學術ノ試験ヲ受クヘキ者ハ身體檢査ノ際新タニ撮影シタル寫真紙裏面  
ニ族

籍氏名ヲ自書 一葉ヲ検査醫官ニ差出スヘシ  
シタルモノ

第四條 條例第十三條ノ身體検査終レハ軍醫ハ其成績ヲ陸軍將校生徒試験臨時委員  
ニ通知シ條例第十條ノ人名書ニ不參其他ノ事由ヲ記註シ體格検査表ヲ添ヘ師團長  
ニ報告スヘシ其ノ身體検査ニ不合格ノ者(二十歳未滿者ヲ除ク)ノ體格検査表ヲ本  
籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ送付スヘシ

願書差出後轉籍其ノ他止ムヲ得サル事故アリ他ノ師管ニ於テ検査ヲ受ケンコトヲ  
願出ル者アルトキハ甲乙師團長協議ノ上検査時日及場所ヲ定メ許可スルコトヲ得  
前項ニ依リ乙師團ニ於テ検査ヲ施行シタルトキハ其ノ成績ヲ甲師團ニ通知シ甲師  
團ニ在テハ其ノ師管内ニ於テ検査シタル者ト同一ノ取扱ヲ爲スヘシ

第五條 條例第十四條第二項ニ依リ身體検査ヲ爲スヘキ人名ハ師團長ヨリ聯隊區司  
令官又ハ警備隊司令官ニ達シ同官之ヲ島司郡市長ニ通達シ島司郡市長ハ検査ノ時  
日及場所ヲ告示ス可シ  
願書差出後轉籍其ノ他止ムヲ得サル事故アリ他ノ聯隊區又ハ警備隊區ニ於テ身體

検査ヲ受ケンコトヲ願出ル者アルトキハ甲乙聯隊區司令官又ハ警備隊司令官  
隊區ニ在テハ該 協議ノ上検査時日及場所ヲ定メ許可スルコトヲ得  
司令官以下同シ

沖繩  
警備

前項ニ依リ乙聯隊區又ハ警備隊區ニ於テ身體検査ヲ施行シタルトキハ其ノ成績ヲ  
甲聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知シ甲聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ其  
ノ聯隊區又ハ警備隊區ニ於テ検査シタル者ト同一ノ取扱ヲ爲スヘシ

第六條 身體検査終ル後聯隊區司令官又ハ警備隊司令官其人名書ニ不參其他ノ事由  
ヲ記註シ體格検査表ヲ添ヘ師團長ニ報告スヘシ

第七條 削除

第八條 師團長ハ條例第十三條ノ試験ニ合格シタル者及第十四條第二項ノ検査ニ不  
參シタル者 以上二十歳未  
滿者ヲ除ク ノ人名ヲ速ニ本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官  
ニ通知スヘシ

第九條 師團長ハ合格人員中所管外ノ衛戍地ニ於テ服役スヘキ者ノ人名書ニ各冀望  
ノ兵科及衛戍地ヲ記シ之ニ體格検査表ヲ添ヘ當該所管ノ師團長ニ通知スヘシ

同兵種二隊以上アル衛戍地ニ於テ服役冀望ノ者アルトキハ前項ノ通知ヲ受ケタル師團長其ノ隊號ヲ指定シ之ヲ居住地所管ノ師團長ニ通知スヘシ

第十條 條例第十四條ノ一年志願兵認定證書ハ附録第五様式ニ依リ作ル可シ

第十一條 師團長ハ同兵種二隊以上アル衛戍地ニ服役セントスル者ノ隊籍ヲ定ムルニハ成ル可ク之ヲ各隊ニ平均ス可シ

第十二條 師團長ハ一年志願兵認定證書ヲ附與シタル者ノ人名及第九條第一項ニ依リ通知ヲ受ケタル人名書ニ體格検査表ヲ添ヘ當該聯隊長（聯隊ヲ爲サ、ル隊ニ在テハ該隊長以下同シ）ニ下付スヘシ

前項中近衛師團ニ係ルモノハ第一師團長ヨリ近衛師團ニ送附シ近衛師團長ヨリ當該聯隊長ニ下付スヘシ

第十三條 聯隊長ハ前條ノ一年志願兵ニシテ十二月一日ニ入隊セサル者アルトキハ其人名及事由ヲ師團長ニ報告スヘシ但二十歳以上ノ者ニ在テハ尙本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ通知スヘシ

近衛師團長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ第一師團長ニ通知スヘシ

第十四條 條例第三十一條第三十二條及入隊前第三十五條ニ當ル者アルトキハ師團長其必要ノ事項ヲ聯隊長ニ達スヘシ但二十歳以上ノ者ニ在テハ尙本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ通知スヘシ

第十五條 一年志願兵徵募事務終結後師團長ハ附録第七様式ニ依リ一年志願兵人員表ヲ作り翌年一月十五日迄ニ陸軍大臣ニ報告ス可シ

第十六條 條例第二十一條ニ依リ軍醫生、藥劑生、獸醫生ヲ志願スル者アルトキハ聯隊長其願書及卒業證書寫ヲ師團軍醫部長若クハ獸醫部長ニ送付シ軍醫長、獸醫長ヨリ師團長ノ認可ヲ受ケ後半ノ初ニ於テ聯隊長ヲ經由シ之ヲ命スルモノトス  
藥劑生ハ衛戍病院ニ派遣シ勤務ヲ練習セシムルモノトス

第十七條 軍醫生、藥劑生ト爲シタル者ハ貸與セシ兵器ヲ返納セシメ徒歩刀ヲ給ス獸醫生ト爲シタル者ハ軍刀或ハ砲兵刀ヲ除クノ外兵器ヲ返納セシム

第十八條 師團長ハ一年志願兵終末試験終リタルトキ附録第八様式ニ依リ成績表ヲ